

修士学位論文

日本語極小化子「ちょっと」の語用論的・統語論的分析
—通時的变化と日中比較の視点から

平成 29 年度
東北大学大学院
情報科学研究科
人間社会情報科学専攻
賈婉琦

Abstract

A Pragmatico-syntactic Analysis of the Japanese Minimizer “Chotto”: A Perspective
from Diachronic Change and Chinese-Japanese Comparison

Wanqi JIA

The original meanings of *chotto* in Japanese are small quantity, low degree, or short time. However, *chotto* is often used as an expressive minimizer, which mitigates the force of speech acts in daily conversation. This paper considers that the semantic change of *chotto* is related to grammaticalization. According to corpus investigation, the expressive usage of *chotto* first appeared in 1200s and has been increasingly used afterwards. Moreover speech acts qualified by *chotto* have also been diversified. This paper will also analyze *chotto*'s Chinese counterparts “*youdian*” and “*yixia*”. “*youdian*” and “*yixia*” also have expressive usage, comparable to *chotto*, the usage of “*youdian*” and “*yixia*” are more limited and they are in complementary distribution.

key words: *chotto*, expressive minimizer, speech act, grammaticalization, historical corpus

目次

Abstract.....	I
目次.....	II
第1章 導入.....	1
第2章 「ちょっと」に関する先行研究.....	6
2.1 語用論・意味論.....	6
2.1.1 Sawada(2010-2016)の先行研究.....	6
2.1.2 Matsumoto(2001)の先行研究.....	8
2.2 応用言語学.....	9
2.2.1 岡本・斎藤(2004)の先行研究.....	9
2.2.2 秋田(2005)の先行研究.....	11
2.2.3 小出(2012)の先行研究.....	12
2.3 歴史言語学.....	15
2.4 Matsumoto 分類と小出分類の比較.....	17
第3章 「ちょっと」の文法化.....	21
3.1 メタファー的過程.....	22
3.2 主観化.....	23
3.3 文法化による統語変化.....	27
第4章 コーパス調査による仮説の検証.....	35
4.1 日本語歴史コーパスの調査結果(1220年-1925年).....	37
4.2 青空文庫の調査結果(1930年-1960年).....	42
4.3 現代日本語均衡コーパスの調査結果(1970年-2008年).....	43
4.4 本節のまとめ.....	44
第5章 中国語と日本語の比較について.....	45
5.1 「ちょっと」「有点」「一下」の共起条件に関する比較.....	46
5.2 「有点」「一下」の感情的用法について.....	53
第6章 まとめ.....	57
参考文献.....	58

第1章 導入

極小化子は最小の数量または程度を示し、否定を強化する機能もある。

Bolinger(1972:121)は英語の極小化子を次のように定義する:

(1) The minimizers are partially stereotyped substitutes for *any*

I will not go an inch farther.

I will not go any farther.

It isn't worth anything.

Wagenaar(1930)、Pott(1857)、Horn(1989)は英語、ギリシャ語、フランス語、スペイン語などの様々なインドヨーロッパ言語にける極小化子について研究した。Pott(1857)とWagenaar(1930)を参照した上で、Horn(1989)は以下のような極小化子のリストを与える。

(2) 料理領域の最小量

=not a cherrystone, a chestnut, a crumb, an egg, a fava, a fig, a garlic など
価値の低い硬貨

=not a cent

動物及び身体部分

=not a cat's tail, a hair, a mosquito, a lobster [sic], a sparrow

ほかの値が低い対象

=not an accent, an atom, a nail, a pinecone, a point, a shred, a splinter など

極性(polarity)とは肯定・否定の区別がある。肯定的極性の文脈にのみ現れる要素を肯定極性表現という。例えば、「とても」、「かなり」などである。一方、否定的な極性の文脈にのみ現れる要素を否定極性表現と呼ぶ。例えば、「1つも～ない」、「少しも～ない」、「ちっとも～ない」などである。(奥野・小川(2002))

本論では、日本語の極小化子「ちょっと」を中心に考察する。「ちょっと」は典型的に程度副詞として使われる。程度副詞としての基本的な用法は少量を表す用法や小さい程度を

表す用法である。例えば、

(3) 厚い皮の餃子はあんにしっかり味をつけ、黒酢をちょっとつけて食べるとおいしいですよ。(dancyu/雑誌, 2002年11月号)

(4) 濃い目の新茶をふり出して、鍋に入れ軽くひと煮立ちさせる。このときちょっと塩をふり込んでやる。(金子信雄『金子信雄の楽しい夕食』)

(5) 晴れた日だと、背中を丸めた坊さんが座っているような大同心の岩峰と、その脇にちょっと小さめの小同心の岩峰が、遠くからでも見渡せるのだ。

(能島龍三『風の地平』)

(6) 「猫の鳴き声だよ」

「ドアは開けたままにしてたからちょっと目を動かしただけで、見えた」

(沙藤一樹『D-ブリッジ・テープ』)

(7) ブレンダは、ちょっと力をこめただけで、ドリグを橋の上にひきずりあげることができた。(野口絵美 訳『呪われた首環の物語』)

以上の例文では、(3)と(4)の「ちょっと」は「黒酢」と「塩」の量が少ないことを表し、(5)(6)(7)の「ちょっと」は「小さめ」の程度、「目を動く」程度、「力をこめる」程度が小さいことを表す。それぞれを「少し」に置き換えても文が容認でき、文の意味もあまり変わらない。

(8) このとき少し塩をふり込んでやる。

(9) ブレンダは、少し力をこめただけで、ドリグを橋の上にひきずりあげることができた。

以上は一般認識の中で、「少量」「小程度」を表す「ちょっと」の基本的な用法である。しかし、会話場面では、その基本用法で説明できない例もたくさんある。

(10) 「この本をちょっと貸していただけませんか？」

(11) A: 今度の日曜日なんですけど、通訳をしていただけませんか？

B: 日曜日はちょっと…

(12) あなたの計算はちょっと間違っていますね。

(13)A: 「…タクシーを呼ぶよ」

B: 「いや、いい気分だから、ぶらぶら駅まで歩いて電車で帰るが、ちょっと家へ電話をする」と云い、席をたって茶の間にある電話のダイヤルを廻した。

(山崎豊子『不毛地帯』)

(14) 「ちょっと中村さん、期末テスト期間はいつからいつまでですか？」

以上の用例では、「ちょっと」が量、程度を限定するとは言い難い。それぞれの例文を見ると、(10)は相手に何かを依頼する文脈であり、(11)は相手の頼みを断る文脈であり、(12)は相手の間違いを指摘する用例である。(11)と(12)は話者の否定的な態度を含んでいる用法と見なされる。(13)は話者Bが席を離れる前に、相手に自分の行動を予告する場面である。以上の場面では、話者の行為が相手に負担をもたらす可能性があり、「ちょっと」を用いることによって、話者の発話行為を弱めたり、聞き手への負担を緩めたりすることができる。(14)の「ちょっと」は感動詞であり、相手の注意をもらいたい時に「呼びかけ」の機能を果たす。

以上の例の「ちょっと」を「少し」に置き換えると文は不適格になる。たとえば、

(15)A: 今度の日曜日なんですけど、通訳をしていただけませんか？

*B: 日曜日は少し…

(16)* 「この本を少し貸していただけませんか？」

(17)* 「少し中村さん、期末テスト期間はいつからいつまでですか？」

以上の例文から見ると、(10)–(14)のような発話行為を弱める用法は同じ極小化子である「少し」に見られない、「ちょっと」に特有な用法であるといえる。

(10)–(14)の「ちょっと」は「自分の行為を控えめに表現する」という話者の気持ちを示している。いずれの「ちょっと」も少量、小程度を表す基本用法から派生したものと見なされる。Sawada(2010)によると、このような「ちょっと」の特別な用法は感情的(expressive)用法という。

本論文は通時的変化と日中比較の視点から日本語の極小化子「ちょっと」について分析する。以下を主張する：

①「ちょっと」の多義性と意味変化は文法化によるものである。「ちょっと」は程度副詞の用法と感情的用法の両方とも持っているが、通時的にみると、「ちょっと」の感情的用法が増大していく。感情的用法の増大は「ちょっと」という語が通時的に文法化を受け、主観化しつつあることを反映していると主張する。

②コーパス調査によると、「ちょっと」の感情的用法の内部発達も見られる。現代の会話で使われる「ちょっと」の感情的用法は「断定」の用法から始まり、その用法を「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」、「呼びかけ」へと拡張していつている。

③「ちょっと」の意味変化は統語構造上にも反映される。「ちょっと」は量・程度を表す意味から、感情的意味への発達、または感情的用法の中で「断定」、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の用法の発展は「ちょっと」が修飾する事象の複雑さが高くなっていく(相手を徐々に巻き込んでいく)傾向が見られるが、これと関連して「ちょっと」が述語に近い位置にもともと生じていたのが、次第に述語から離れ、統語位置が上がっていくことが観察される。

④「ちょっと」の中国語対応語「有点」と「一下」は感情的用法を持っている。

(18) a. 那本书 借 我 一下 好吗? (*那本书**有点**借我好吗?)

その本 貸す 私に ちょっと いただけませんか?

私にその本をちょっと貸していただけませんか?

b. 那 **有点** 不可 想象。(那一下不可想象。)

それは ちょっと できない 想像

それはちょっと想像できない。

c. ちょっと、どこへ行くの? (中国語訳:**喂**, 去哪儿呀?)

***有点**, 去哪儿呀?

*一下, 去哪儿呀?

「有点」と「一下」は「ちょっと」のように感動詞として使われる用法を持っていないが((18c))、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する時、「有点」と「一下」は役割を分担し、相補分布を示す。

論文の構成に関しては、2節では語用論・意味論、応用言語学、歴史言語学の分野で行う「ちょっと」の感情的用法の代表的な研究を紹介し、「ちょっと」の感情的用法の分類を提

案した Matsumoto(2001)と小出(2012)の研究を比較する。3節では、「ちょっと」の文法化に関する分析を行う。「ちょっと」の意味変化は文法化によるものであると主張する。「ちょっと」の意味拡張はメタファー的な過程を伴い、客観的な意味から主観的な意味への変化があり、その意味変化は統語構造上にも反映されると主張する。4節では、日本語歴史コーパス、書き言葉均衡コーパス、青空文庫を参照にして、1200年代－2000年代の「ちょっと」の感情的用法の通時的発達状況を明らかにする。5節は日中比較の視点から、「ちょっと」と中国語対応語の「有点」と「一下」を比較して分析する。6節は本論のまとめである。

第2章 「ちょっと」に関する先行研究

程度副詞に関する研究の中で、工藤(1983)、渡辺(1990)、仁田(2002)は「ちょっと」が量・程度の低さを修飾する程度副詞の用法に注目し、程度性のあり方などを研究している。これらの研究では、「ちょっと」の程度副詞用法を着眼しただけで、程度副詞から逸脱した「ちょっと」の用法に言及しなかった。

程度副詞の用法から派生した「ちょっと」の用法を対象とする研究は、さまざまな言語研究の分野で行っている。以下では、語用論・意味論、応用言語学、歴史言語学の分野での代表的な研究を紹介する。

2.1 語用論・意味論

語用論・意味論の分野で代表的な研究は Matsumoto(2001)と Sawada(2010-2016)の一連の研究である。

2.1.1 Sawada(2010-2016)の先行研究

Sawada は、日本語の「少し」「ちょっと」のような少量、小程度を表す語を minimizer(極小化子)と言う。

(19)a. この竿は {少し / ちょっと} 曲がっている。

b. {ちょっと / *少し} はさみある？

(19a)の「ちょっと」は竿の曲がりの程度がより客観的に測っているものであり、それに対して、(19b)の「ちょっと」は話者の要求の程度を弱めるものである。(19a)の「ちょっと」は文の真理条件に関連する意味であるのに対して、(19b)の「ちょっと」は真理条件に関わらず、慣習的含意に関係している。Sawada は(19a)の「少し / ちょっと」は amount minimizer(量の極小化子)であり、(19b)の「ちょっと」は expressive minimizer(感情的極小化子)であると主張する。注意すべきは、「ちょっと」が意味論レベルと語用論レベルのどちらでも使われるものだが、「少し」は意味論レベルしか使われない。そこから見ると、「少し」と「ちょっと」の間に非対称性がある。

Sawada によると、(20) のように、amount minimizer と expressive minimizer は同じスケールの意味を持っている。

(20) [[sukoshi/chotto]] = $\lambda G \langle d, \langle X, t \rangle. \exists d [d \approx \text{STAND} \wedge G(d)(x)] \rangle$

しかし、慣習的含意のレベルでは、両者が異なる細密度 (granularity) を示す。即ち、Sawada は「ちょっと」と「少し」の非対称性は細密度 (正確性・不正確性) と関わっていると主張する。「ちょっと」は不正確な計量を実行する時に使い、従って、正確に測定できない発話行為を修飾することが可能である。それに対して、「少し」は正確さを伴う計量を実行する時に使われるものなので、不正確さを内在する発話行為を修飾できないという。「少し」と「ちょっと」の分布パターンの違いは (21) のようになる。

(21)

	段階的述語	感情的述語	量測定	度量句	測定の基準が不明瞭
「少し」	[O] ex. この本は <u>少し</u> 高い	[X] ex. ?この仕事は <u>少し</u> 嫌だ	[O] ex. <u>少し</u> の水	[X] ex. ?? この竿は 30 度 <u>少し</u> 曲がっている	[X] ex. A: この辞書はいくらですか? B: ことらは 3 万円になります。 A: ? <u>少し</u> 高いなあ。
「ちょっと」	[O] ex. この本は <u>ちょっと</u> 高い	[O] ex. この仕事は <u>ちょっと</u> 嫌だ	[X] ex. ? <u>ちょっと</u> の水	[O] ex. この竿は 30 度 <u>ちょっと</u> 曲がっている	[O] ex. A: この辞書はいくらですか? B: ことらは 3 万円になります。 A: <u>ちょっと</u> 高いなあ。

さらに、極性とは肯定・否定の区別がある。自然言語における極小化子は2種類がある。即ち、肯定極性極小化子(positive polarity minimizer)と否定極性極小化子(negative polarity minimizer)である(奥野・小川(2002))。肯定極性極小化子は肯定的な文脈で生じられ、否定的な文脈で生じられないものである。例えば、「とても」、「かなり」などである。一方、否定極性極小化子は否定的な文脈で生じられ、肯定的な文脈で生じられないものである。例えば、「1つも～ない」、「少しも～ない」、「ちっとも～ない」などである。Sawadaによると、少量/少程度を表す「ちっと」は肯定極性極小化子(PPI)であり、(22)が証拠として挙げられる。

(22) a. このポールは ちっと 曲がっている。

b.?? このポールは ちっと 曲がっていない。

Sawada は肯定極性極小化子(PPI)は純粋な感情的用法を持っているが、否定極性極小化子(NPI)は純粋な感情的読みを得られないと主張する。

(23) a. ちっと それはできません。

b. ちっとも それはできません。

(23a)は「ちっと」をつけることで、直接に「できない」を言う唐突さを避け、発話行為の力が弱められる。しかし、(23b)は「それは全然できない」ということを含意し、発話行為を弱める意味がなく、否定を強調する意味を持つ。

Sawada の研究では、ほかの程度副詞に見られない発話行為を修飾する「ちっと」の感情的用法を分析しているが、しかし「ちっと」が具体的にどんな発話行為を修飾するのかに関しては言及していない。

2.1.2 Matsumoto(2001)の先行研究

Matsumoto(2001)は日本語の「ちっと」が“hedge word”(垣根ことば)であり、時間が短い、量/程度が小さいことを表すだけでなく、英語の“sort of”“guess”のように発話行為の緩和表現としても使われることを主張する。この点については澤田の主張と一致

しているが、Matsumoto はさらに感情的用法としての「ちょっと」を下位分類した。Matsumoto による分類は (24) のようにまとめる。

(24)

発話行為	例文	「ちょっと」の機能
行為指示 (directive)	<u>ちょっと</u> おふくろ呼んできてくれ。	要求の押し付け度や、相手への負担を最小限にする。
断定 (assertive)	a. あのと、 <u>ちょっと</u> 図書館へ行くから... b. あのと、あれなんですよ。 <u>ちょっと</u> 父が亡くなりましたもんで...	話者の陳述の力を最小限にし、自分のことを大きく扱わないようにしたい気持ちを表す。
行為拘束 (commissive)	それ、 <u>ちょっと</u> してあげるわよ。	任せられたことは軽い気持ちでやることができ、自分にとって負担ではないことを表す。
批判/否定意見表明 (negative assessment)	a. <u>ちょっと</u> おかしいですね、やはりそれは... b. あいつ <u>ちょっと</u> やり過ぎなんだよな。	直接の否定を避け、無礼にならないように、または相手に不快感を与えないために「ちょっと」が使われる。

澤田の研究と比べると、Matsumoto の研究では、「ちょっと」がどの発話行為を修飾でき、どの機能を果たすかについて上のように詳しい考察をしている。しかし、Matsumoto は「ちょっと」の感情的用法をいかなる基準に基づいて分類するのかについては明確にしていない。

2.2 応用言語学

応用言語学の領域では、岡本・斎藤(2004)、秋田(2005)、小出(2012)らが「ちょっと」のさまざまな意味用法に着目して考察している。

2.2.1 岡本・斎藤(2004)の先行研究

岡本・斎藤は日本語教育の立場から、「ちょっと」の用法をどのように提示すれば、学習者は理解しやすいかという問題を考察する。さらに、彼らは「ちょっと」のコミュニケーション機能を注目し、談話における「ちょっと」の機能を以下のように主張する。

①依頼、希求、指示行為の負担を和らげる

「ちょっと」は「～てください」、「～てほしい」、「～てくれ」、「～てもらえないか」などの行為要求文と共起する場合に、「ちょっと」を用いることで、行為の要求度が下げ、相手が要求された行為を受容しやすくなる。

②否定的内容の前置き

「ちょっと」に続く表現は否定的内容の表現である場合に、その表現は聞き手の利益を損なう可能性がある。「ちょっと」を用いることで、聞き手にその否定的内容を受け取る心構えを与え、話者の心理負担も弱めることができる。

③断りを受けやすくする

「日曜日はちょっと…」のように話し手が聞き手の期待にそえず、申し訳ないという意味を表す。同時に、断りを表す述部を省略し、聞き手にそれを推察させ、相手を会話に引き込みながら、断りの意志を間接的に伝えることができる。

④呼びかけ

「ちょっと」は感動詞として使われ、注意喚起の機能を持つ。但し、「ちょっと、これは何ですか、スープに虫が入っていますよ」のように、相手が目の前にいる場合は抗議などの感情を強める用法もある。

⑤咎め

自分の利益を相手によって損なわれたと思った時、「ちょっと」を用いることで、不満や怒りが表現できる。

⑥間つなぎ

「あのう、そのう、ちょっと、こう、なんて言ったらいいのか」のように、言いよどみ

を埋める間投詞の働きがあり、沈黙を回避しようとすることができる。

岡本・斎藤によると、以上の六つのコミュニケーション機能は「ちょっと」の本来の意味から派生し、聞き手への配慮を押し出しながら、話し手の責任を回避する役割があると述べている。

岡本・斎藤は「ちょっと」の談話機能をきちんとまとめて、日本語学習者に大変有益な指導を与えている。但し、彼らの研究はコーパスの談話資料や日常会話のデータを収集して分析するものではない。

2.2.2 秋田(2005)の先行研究

秋田(2005)は『女性のことば・職場編』という自然談話資料を分析の対象とする研究である。「ちょっと」は実際の会話場面でどのような機能を持っているかについて考察している。この点では、岡本・斎藤の研究より発展的である。秋田によると「ちょっと」の機能は以下のようになる。

(25)

機能	例文
自分の行為が大げさに響かない	a. A:そこねー、もう占拠されてるー B:ほんとにー A:うーん、朝 <u>ちょっと</u> 通ったらねー。 b. 帰りも <u>ちょっと</u> 見てみようかな。(P ₇₇₋₇₈)
聞き手の負担を軽減する	c. A:先生いらっしゃいますか。 B:先生は一あっちの方(ほう)、 <u>ちょっと</u> 見てみて、印刷室とか。 d. <略>今そちらに回しますので、 <u>ちょっと</u> お待ちいただけますかー。

秋田は、「ちょっと」の用法を考える時、「人間関係も含めて、文脈次第であるということに、「ちょっと」の特殊性がある」ということを指摘している。「ちょっと」の意味・機能は文脈が異なると変わる可能性があるという観察が注目に値する。

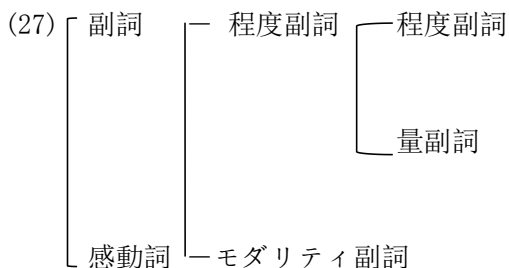
2.2.3 小出(2012)の先行研究

小出(2012)は、「ちょっと」のフィラー用法を中心にして議論する。論文でフィラーと見なされている例は、(26)のような例である。「ちょっと」のかかり先が定かではないと考えられる。

(26) (フィラー)

- 1: (...) あの一、失礼ですけど、ご主人様は、どのようなその、例えば、ある、典型的な一日ですと、(2: ええ) 何時頃お宅をお出になって何時頃お帰りになられるんでしょう?
- 2: あ、そうですね、え一、昨日の場合ですと、(1: はい) 朝、7時半頃出まして、会社は8時半から一(1: はあ一) なんです。それで、主人はちょっと、こう設計関係の仕事なものですから、(1: はい、はい、はい) 今締切り間近で、(1: はい) 大体次の日に、帰ってまいります。

「ちょっと」の持つ品詞性について、小出は(27)のように図式する。



(27)から見ると、「ちょっと」は副詞、感動詞という2つの品詞を持つ。副詞としての「ちょっと」は程度副詞とモダリティ副詞に分けられ、程度副詞としての「ちょっと」はさらに動詞を修飾する量副詞と形容詞類を修飾する程度副詞に二分される。

小出の研究では、発話行為を修飾する「ちょっと」がモダリティ副詞として見なされる。彼はHCSJ(「インタビュー形式による日本語会話データベース(上村コーパス)」)などのコーパスの中で比較的多く用いられた「ちょっと」の用法を(28)のようにまとめ、それらの例文での「ちょっと」について、「程度副詞としてみるのではなく、説明の困難さとそれに伴う説明省略の表明」の機能を持つと主張する。

(28)

宣言 a. いやわたくしちょっと今忘れてしまいました。

b. あのですね、(1:はい)実はあの一ゴミの件なんですけれども(1:はい)あの一こちらではどっちら一に、あの一出したらいいのか(1:あ)え、ちょっとあの一分からないもんで。

c. じゃちょっともう一つあの一ロールプレイをしていただきたいと思いますけれども。

d. ちょっとあなたに聞きたい。

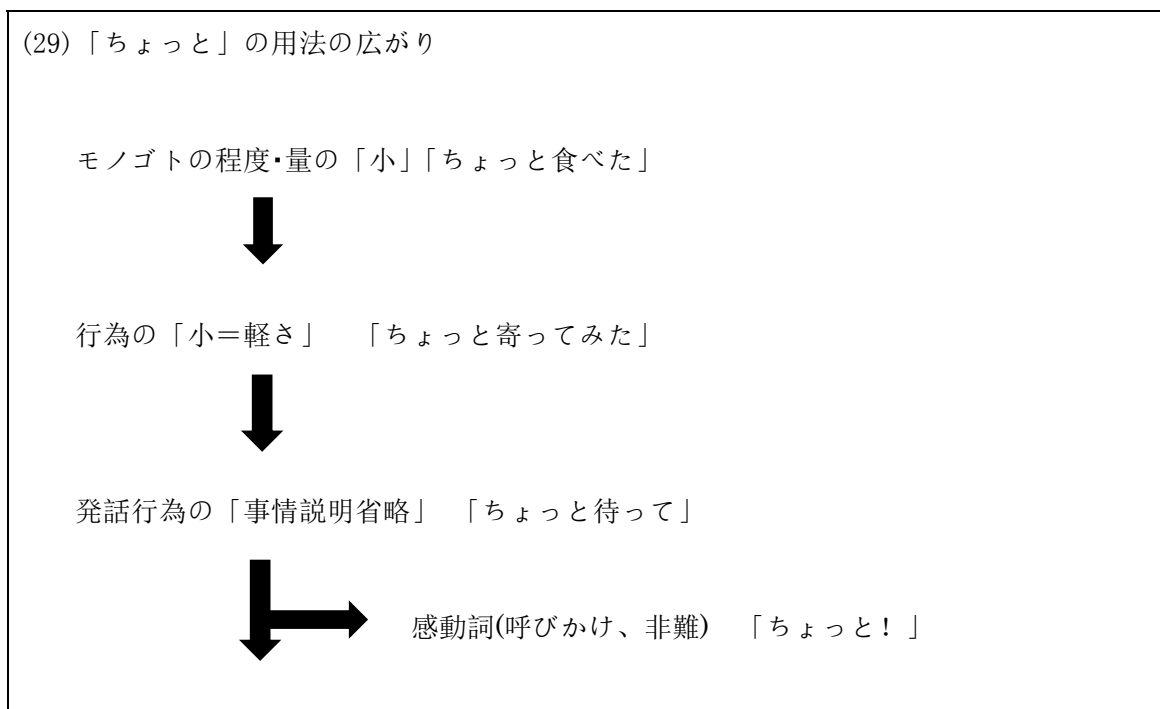
命令 e. ちょっと待って。

f. ちょっとやめろよ。

誘い g. ちょっと歩こう。

小出の分類での(c)、(d)、(e)、(f)、(g)はMatsumotoによる分類((24)参照)の「行為指示」用法と対応し、一方、小出の分類でのa、bは松本による分類の「断定」の用法と対応している。

さらに、「ちょっと」の用法の広がりに関して、小出は(29)のような図式を提案している。



(29)を見ると、「ちょっと」は程度副詞として程度や量の小ささを表す用法は「少し」と類似しているが、「少し」が命題内事柄の量や程度を修飾するという制限があるのに対して、「ちょっと」は「ちょっと寄ってみた」のような、行為の軽さというような心理的度合いを表す用法から、「ちょっと待って」のような対人的行為の和らげ表現と共に起る用法へ発展したことが分かる。このうち「ちょっと待って」の用法では、「ちょっと」が発話行為の意図や背景などの説明を省略したい気持ちの表明の機能を持つと考えられている。

感動詞として使われる「ちょっと」は対人要求的な発話行為で使われる「ちょっと」とのつながりがあるために派生し、「呼びかけ」、「非難」の用法があると小出は主張している。

なお、フィラーとして使われる「ちょっと」はモダリティ副詞から発展したものだと考えられている。フィラーの「ちょっと」も発話行為の意図や背景などの説明を省略したい心的状態を表示するもので、その起源は「ちょっとやめろ」「ちょっと忘れた」の中の説明を回避する機能を持つ「ちょっと」にあると主張されている。

小出の主張について、私は以下の2点の疑問がある。

1つ目は感動詞が非難の機能を持つということである。感動詞とは、感動、応答、呼びかけを表し、活用がなく、単独で文になりえる語である。感動詞の定義によると、感動詞には非難の機能は含まれていない。小出が挙げる「非難」の用例は(30)のとおりである。

(30) a. わざわざそこまでいってくれなくってもいいのにな。「ちょっと。なにふたりでこそそしてんの？」

b. ミチルは、学会で使うスライドを選びながら、クスリと笑った。「ちょっと。人の学会ネタで、伊月君がそこまで憂鬱になることはないでしょう」

しかし、これらの例では「ちょっと」に後続した内容は否定的なニュアンスがある。ここで「ちょっと」を用いることで、相手の注意を喚起した上で、後続のマイナス的な内容を導入している。このような「ちょっと」の用法は感動詞という用法より否定態度表明の一種だと見なした方がよいと思う。

2つ目はフィラーの用法についてである。論文で挙げられたフィラーの用例は例えば、

(31) a. 1: (….) あの一、失礼ですけど、ご主人様は、どのようなその、例えば、ある、典型的な一日ですと、(2: ええ) 何時頃お宅をお出になって何時頃お帰りになれるんでしょう?

2: あ、そうですね、え一、昨日の場合ですと、(1: はい) 朝、7時半頃出まして、会社は8時半から一(1: はあ一) なんです。それで、主人はちょっと、こう設計関係の仕事なものですから、(1: はい、はい、はい) 今締切り間近で、(1: はい) 大体次の日に、帰ってまいります。

b. 1: ああ一、(2: あの一) 一番大きな、ん、そのショックはどのような、事でらっしゃいましたか?

2: そう一ですねえ。まず、帰ってきた、次の日に、あの一、ちょっと地下鉄一。(1: うん)ていうか電車に乗る事があったんですね。(1: はい) (TN f)

(31a)では、話者2は相手に「主人の仕事」について説明しようということであり、この場合は話者が相手に新情報を伝え、または設計仕事は専門性が高い職業であるため、ここで話者は「ちょっと」を用いて、謙遜な気持ちを持ち、説明を省略したい、大げさにならないようにしたいニュアンスがあると思う。(31b)も、「ちょっと」を使って、話者は自分の行動を説明するほどのものではないという心理態度を表明する。以上のような用法は松本が主張した断定の用法、例えば「ちょっと図書館に行くから…」の「ちょっと」と同じように、相手にある新情報を伝え、同時に説明を省略したい、大げさにならないようにしたいという気持ちが含まれる。従って、そのような「ちょっと」は本当にかかり先が不明なフィラーの例とは認められない。(31)の「ちょっと」は「断定(assertive)」の発話行為を修飾する例だと見なすことができる。

2.3 歴史言語学

上で見た先行研究は共時的な視点から「ちょっと」のさまざまな意味用法を考察しているが、「ちょっと」の歴史的变化については触れない。

通時的な視点から行為指示表現中で用いられた「ちょっと」が呼びかけ感動詞へと変化することを考察した研究に深津(2016)がある。

深津によると、近世前期における「ちょっと+行為指示」は行為指示部に「くれる/くださる」を含む依頼文脈に生じやすい。これを背景として「ちょっと+行為指示」の表現は

「ちょっと」自体が行為指示を履行する語用的な表現「ちょっと+ \emptyset 」を派生する。そのような「ちょっと」は特に<呼び出し>の場面に独立した一語文的な発話で使われることが多く、意味的にも統語的にも感動詞に近似するものであると主張されている。論文で挙げられた例は(32)(33)のようになる。

(32) [ちょっと+行為指示]

- a. なつかしさによりましたちよつとよふできて下され<懐かしく寄りました。ちょっと呼んでください> (深津 2016, (3a))
- b. コナタへモチット御出アレ<こちらへもちつとおいでなさい> (深津 2016, (4a))

(33) [ちょっと+ \emptyset]

a. <頼み>

母「ハイ御めんなさいまし。」あなたにわたくしどもの、卒八は居りませんか」(略)
母「左様なら卒八がおりますなら、どふぞ一寸」 <母「ごめんください、そちらに私どもの息子の卒八はおりませんか」 母「卒八がおりますなら、どうぞちょっと(会わせてください)」> (深津 2016, (14c))

b. <呼び出し>

初かつほを奢らんと、一盃しかけるところへ、近所から、「急に御目に懸りたい。ちよつと / 」と呼にくる <初鯉をふるまおうと、一杯飲みかけるところへ、近所から「急いでお目にかかりたい。ちょっとちょっと(会わせてください)」と呼びにくる> (深津 2016, (15))

近世後期頃、「~さん、ちょっと」のように、「ちょっと」は呼称と共起し、ひとまとまりの呼びかけ表現を構成する段階に入り、次第に「ちょっと」が行為指示の機能を失いつつ感動詞的性質を強めたと考えられる。

- (34) a. さつ「...鳥渡幸さんをよんで。そういふておくれんか」 花車「そんならおたこに。よばしましやう。」トいねむりをしてゐる小めろをおこしいひつける、小めろふすまのわきから顔をいだし「もうし / 幸さん鳥渡」 <さつ「ちょっと幸さんをお呼んでそう言ってくれませんか」 花車「それならおたこ(=小めろ)に呼ばせましょう」>

といねむりをしている小めろを起して言いつける。小めろは襖の脇から顔を出して
「もうしもうし幸さんちょっと(来てください)」> (深津 2016, (16a))

b. わる者「アイモシ五四郎さんチヨツト」ト以前の男をよびいだす。(深津 2016, (16b))

「ちょっと」が感動詞化したことは、今まで発話末に出現していたものが文頭に現れるようになること(「ちょっと」自体が行為指示を果たしていない)などによって確かめることができる((35)は感動詞の例である)。ここまで見た(33)、(34)のような例は、「ちょっと」が必ず発話末に現れ、後ろに後続する行為指示の発話の内容が省略される。このような例では、「ちょっと」自体が行為指示を表し、「ちょっと+ \emptyset 」の形式で発話が完結する。しかし、(35)のような例は「ちょっと」が文頭に現れ、後ろにさらに発話が後続されている。その上で、(35)では「ちょっと」が疑問表現と共起し、問いかけのために単に聞き手に呼びかけたものと見なされ、「ちょっと」自体が行為指示を果たしていない。

(35) a. 夏「一寸小金さん何だへ来たのかへ」 金「ハア」 (深津 2016, (18a))

b. 万「一寸お澤殿、姉さんは宅かへ」 下女「先刻何所へか御出被成ました」

(深津 2016, (18b))

深津の考察から、通時的な立場から見ると、感情的用法として使われる「ちょっと」は感動詞の「ちょっと」との間に連続性があることが分かった。深津は「ちょっと」の通時的な感動詞化について論考したが、しかし「ちょっと」のほかの感情的用法の通時的变化については議論していない。

以上から見ると、「ちょっと」の感情的用法について様々な研究があるが、その用法分類の基準が明示せず、通時的に「ちょっと」の用法の発展に関する研究は深津(2016)以外にほとんどない。ゆえに、先行研究の成果への再論証や補足のために、コーパス調査を踏まえて「ちょっと」の用法についてさらに検討し、整理する必要がある。

2.4 Matsumoto 分類と小出分類の比較

2.1 節、2.2 節では「ちょっと」の感情的用法分類について、Matsumoto(2001)と小出(2012)の分類法を紹介した。ここで両者の分類を比較する。Matsumoto(2001)の分類を再現すると(36)のようになる。

(36)Matsumoto(2001)の「ちょっと」の用法分類

発話行為	例文
行為指示 (directive)	<u>ちょっと</u> おふくろ呼んできてくれ。
断定 (assertive)	a.あの、 <u>ちょっと</u> 図書館へ行くから... b.あの、あれなんですよ。 <u>ちょっと</u> 父が亡くなりましたもので...
行為拘束 (commissive)	それ、 <u>ちょっと</u> してあげるわよ。
批判/否定意見 表明 (negative assessment)	a. <u>ちょっと</u> おかしいですね、やはりそれは... b.あいつ <u>ちょっと</u> やり過ぎなんだよな。

Matsumoto は「ちょっと」が限定する発話行為の種類によって語用論的に分類する。Matsumoto は論文の中で分類基準を明確にしていないが、筆者の考えでは、彼女の「ちょっと」の発話行為分類は聞き手が関与しているどうか、また、受益者は話者なのか、あるいは聞き手なのかという基準に対応していると思われる。Matsumoto の分類では「ちょっと」の感動詞用法を扱わないが、ここで追加する。

(37)

発話行為	定義	関与 / 受益関係
断定	「断定」とは話し手は発話内容が真であると信じて、聞き手にある新情報を伝えることを目的とした発話行為のことを指す。	聞き手とは独立した行為で、聞き手は関与しない。
行為指示	話し手が聞き手にある行為をさせようと試みる発話行為。命令、要求、依頼などの行為を指す。	聞き手が関与している。 話し手が受益者であるような行為。
行為拘束 (意思表示)	話者が発話内容の表す行為を自ら実行しようという意志を表明し、行為実行を受けあうことを目的とする発話行為を指す。	聞き手が関与している。 聞き手が受益者となる行為。
否定態度表明	聞き手や第三者に対する否定、非難を表す行為である。	聞き手が関与している。 且つ、話者は聞き手/第三者に対して否定的な態度を持つ。
呼びかけ (感動詞用法)	話者は聞き手の注意を要求する。	聞き手が関与している。 「ちょっと」が独立語として存在する。

上の表から見ると、「断定」という行為は話者自身のことと関連し、聞き手とは独立した行為である。ほかの用法は全て聞き手が関与しているが、受益者が話し手である場合には「行為指示」の用法であり、受益者が聞き手である場合には「意思表示」の用法になる。さらに、話者が聞き手/第三者に対して否定的な態度を持つ場合は「否定態度表明」の用法であり、「ちょっと」が聞き手に向けて独立語として使われる場合は「呼びかけ」の用法である。

小出(2012)は感情的用法として使われる「ちょっと」をすべてモダリティ副詞として見

なし、比較的多く見られる「ちょっと」の用法を分類した。小出の分類と Matsumoto (2010) の分類との対応関係は (38) のようになる。

(38)

小出分類の用法	例文	Matsumoto 分類の用法
宣言	a. いやわたくし <u>ちょっと</u> 今忘れてしまいました。 b. あのですね、(1:はい)実はあのーゴミの件なんですけれども(1:はい)あのーこちらではどっちらーに、あのー出したらいいのか(1:あ)え、 <u>ちょっと</u> あのー分らないもんで。	断定
	c. じゃ <u>ちょっと</u> もう一つあのーロールプレイをしていただきたいと思えますけれども。 d. <u>ちょっと</u> あなたに聞きたい。	行為指示
命令	e. <u>ちょっと</u> 待って。 f. <u>ちょっと</u> やめろよ。	
誘い	g. <u>ちょっと</u> 歩こう。	

小出分類での a、b の用法は Matsumoto による分類の「断定」の用法と対応し、小出分類での c-g の用法は Matsumoto による分類の「行為指示」の用法と対応している。Matsumoto は「ちょっと」の感情的用法を 4 つに分類したことに對して、小出は「ちょっと」の感情的用法をすべてモダリティ副詞として扱い、「ちょっと」の「否定態度表明」、「行為拘束(意思表示)」の用法を網羅していない。つまり、Matsumoto の分類法の方が小出の分類より細かいことが分かる。

従って、本論文では、Matsumoto の分類法をベースにして、さらに「ちょっと」の感動詞用法を加えて考察していく。ただし、本論文では、Matsumoto 分類における「行為拘束 (commissive)」の発話行為については、「意思表示」という用語の方を使う。後者の方が分

かりやすいからである。

第3章 「ちょっと」の文法化

深津(2016)は通時的な視点から「ちょっと」の研究を行ったが、「ちょっと」の文法化に関して言及していない。本章では「ちょっと」は少量/小程度を表す基本的な意味から発話行為を修飾する感情的意味への拡張、または統語構造上に低い位置から高い位置への変化(詳しくは3.3節)を受けてきたという仮説を提示するが、これは文法化に関わる問題である。

文法化(grammaticalization)という術語はインドヨーロッパ語の専門家 Antoine Meillet による。Hopper&Traugott(1993)は文法化を(39)のように定義する。

(39) 文法化とは、語彙項目や語彙構造が(ある)一定の文脈で文法的な機能を果たすようになる過程であり、いったん文法化が発生すると、新しい文法的機能を発展し続ける。

(“Grammaticalization as the process whereby lexical items and constructions come in certain linguistic contexts to serve grammatical functions, and, once grammaticalized, continue to develop new grammatical functions.” (Hopper & Traugott 1993))

(39)のように、文法化は、一般的に、開放類の語彙項目が閉鎖類の文法要素に一方向的に変化する過程を指すが、文法化が発生する段階では、主観化や意味の漂白化や脱範疇化などの様々な現象が起こる。本論は「ちょっと」に関する現象のみを指摘する。

「ちょっと」の文法化の特性をまとめると以下のようなになる。

(40) a. 「ちょっと」の意味拡張はメタファー的な過程を伴い、物理的世界から認知的世界への写像がある。

b. 「ちょっと」の意味変化は文法化の一方向性に従い、客観的意味(命題の意味)から、話者の感情態度を中心になる主観的意味への変化がある。

c. 「ちょっと」の意味変化は統語構造上にも反映される。「ちょっと」は量・程度を表す意味から、感情的意味への発達、または感情的用法の中で「断定」、「行為指示」、

「意思表示」、「否定態度表明」の用法の発展は「ちょっと」が修飾する事象の複雑さが高くなっていく(相手を徐々に巻き込んでいく)傾向が見える。それとともに、「ちょっと」が述語に近い位置にもともと生じていたが、次第に述語から離れ、統語位置が上がっていく(Roberts Ian& Roussou Anna, 2003)。

以下では、(40)の各主張について具体的に述べる。

3.1 メタファー的過程

文法化の初期段階では、会話の推論が増大され、つまり多義的に解釈されるようになる。Hopper&Traugott(1993:77-87)は推論のタイプを以下のように分けられる：

- (41) a. メタファー的な過程
- b. メトニミー的な過程

意味変化の過程の中で最も認められたものはメタファーである。メタファー的な過程は、ある領域から別の領域への写像と言われる。Traugottによると、メタファーの標準的例は以下のように挙げられる。

- (42) a. Sally is a block of ice. (サリーは氷の塊だ)
(Searle 1979, P97)
- b. The sentence was filled with emotion. (文は感動に満ち溢れていた)
(Reddy 1979, P288)

(42a)はサリーを別のもの(氷の塊)と照らし合わせる例である。(42b)を見ると、感情は人間特有のものであり、文はもともと感情を持たないものだが、ここでメタファー的な手段によって抽象的な意味を加える。

以上の定義と「ちょっと」の標準的例を照らしてみると、「ちょっと」の意味変化はメタファー的な過程と関連している。(43)、(44)の例から考える。

- (43) a. 黒酢をちょっとつけて食べるとおいしいですよ。

- b. 2分ちょっと待ちました。
- c. 今日はちょっと寒い。

以上の例では、「ちょっと」がそれぞれ少量、小時間、小程度の意味を表す。「量」、「時間」、「程度」はいずれも物理的世界に関わる概念である。

- (44) a. この本をちょっと貸してくれませんか？
- b. ちょっとはさみある？
 - c. それはちょっとできません。

(44a)の例を見ると、「ちょっと」が「小時間」と解釈できるし、要求を表す時に相手の心理的負担を軽減するものだと見なされる。しかし、(44b, c)は少量、小程度または小時間の解釈では難しい。(44b)は暗示的に「はさみを取ってくれる？」という要求を伝え、(44c)は相手の頼みを断ることを表す。話者は「要求」または「断る」の行為が相手に負担をもたらすことを想定し、相手への負担を軽減するために「ちょっと」を使う。そうしてみると、(44)の「ちょっと」は物理的世界の「量」、「程度」などを表すものではなく、「相手の負担を軽減する」という話者の心理状態を表すものである。話者の心理状態を表す「ちょっと」は認知的世界と関わるものであるため、もともと物理的世界で少量、小程度を表す「ちょっと」の意味は相手の負担を軽減する意味へと拡張され、「ちょっと」の意味拡張はメタファー的な過程を伴い、物理的現象の世界から抽象的な心理状態の世界への写像があると言える。

3.2 主観化

メタファーの語用論的強化はよく主観化を伴う。Traugottは通時的な観点から主観化と文法化を結びつけ、文法化が進むにつれて、意味がだんだん話者の主観的な信念や態度を表すようになると主張している。主観化(Subjectification)にはいくつかの定義があるが、本論では(45)のようなTraugott(1995:31)が提案した主観化の定義に従う。

(45) Subjectification(主観化)とは、命題(即ち、話者が話していること)の意味が徐々に話者の主観的な信念/態度に基づくようになる語用論的・意味論的過程である。“…

‘subjectification’ refers to a pragmatic–semantic process whereby ‘meanings become increasingly based in the speaker’ s subjective belief–state/attitude toward the proposition’ ,in other words, towards what speaker is talking about…” (Traugott1995:31)

Traugott は主観化の過程は以下の3つの傾向に分割され、I > IIそして I > III、II > III のように進行するという。

(46)a. 傾向 I

外部事態の記述された状況に基づく意味から(言語主体の評価、知覚、認識などの)内内的な記述された状況に基づく意味へ

(Tendency I: Meaning based in the external described situation > meanings based in the internal (evaluative/perceptual/cognitive) described situation.)

b. 傾向 II

外部事態あるいは内部状況に基づく意味からテキスト的状況やメタ言語的状況に基づく意味へ

(Tendency II: Meanings based in the external or internal described situation > meanings based in the textual and metalinguistic situation.)

c. 傾向 III

意味は徐々に命題に対する話者の主観的信念や態度などに基づくようになる

(Tendency III: Meanings tend to become increasingly based in the speaker’ s subjective belief state/attitude toward the proposition.)

3つの傾向に関する主観化の例については、“while” の例が挙げられる。“while” の主観化の発展は(47)のようになる。

(47) Old English(OE) *þahwile þe* ‘at the time that’ > Middle English (ME) *while* ‘during’ > Present–Day English(PDE) *while* ‘although’

古英語時代の「at the time that」という意味を表す「while」は時間的な状況を記述す

るものである。時間的情況は客觀的に検証可能であるため、その意味で古英語時代の「while」は命題の意味に関わり、(44)で挙げられた傾向Ⅰに關与している。中英語時代に、「while」が「during」の意味を持つようになる。「during」は2つの節の間の時間的關係が示すようになった(即ち、文脈の接続關係を表すことができる)ため、テキスト的機能があると言え、上で挙げられた傾向Ⅱを示している。現代英語では、「while」が「讓歩」の意味として使われる。「讓歩」の意味を表す「while」は主に話者の態度を表し、上の傾向Ⅲに關与している。総合的に見ると、「while」の意味は客觀的な時間状況を表す意味から、文脈の接続關係を表す意味、最後は話者の態度を表す「讓歩」の意味へ変化し、「while」の意味は徐々に主觀化したと言えるのである。

この議論に従って、次は「ちょっと」の主觀化の發展を考えてみる。

- (48) a. 黒酢をちょっとつけて食べるとおいしいですよ。
b. この本をちょっと貸してくれませんか?
c. ちょっとはさみある?
d. ちょっとおかしいですね、やはりそれは…
e. あの、あれなんですよ。ちょっと父が亡くなりましたもんで…

(48a)の「ちょっと」は量の読みしか持たず、黒酢の量が少ないことを表す。(48b)は量の読みと感情的読みの両方とも持ち、本を貸す時間の量が少ないという解釈ができるし、要求を表す時に相手の心理的負担を軽減する解釈もできる。一方、(48c-e)は感情的読みしかない。(48c)は暗示的に「はさみを取ってくれる?」という要求を伝え、「ちょっと」は要求の押し付け度を最小限するために使われる。(48d)は否定的な態度を表明する場面であり、直接の否定をいう唐突さを避けたいために「ちょっと」が使われる。(48e)では「ちょっと」が使うことによって、「父が亡くなる」ことを相手に伝える同時に、自分のことを大きく扱わないようにしたい気持ちを表す。つまり、(48a)-(48e)は「ちょっと」の解釈は物理的世界(外部世界)に関わる「少量」の解釈から話者の心理状態や信念などの内面的世界に関わる「相手の心理負担の軽減」の解釈へ変化する。そこから見ると、(48a)-(48e)の「ちょっと」の意味は全体として命題に関わる意味から話者の心理状態に基づく意味になり、主觀的な意味が強くなる傾向が見え、「主觀化」があると言える。

具体的には(46)のTraugottが挙げられた主觀化過程のⅠからⅢへという傾向に従うもの

である。「ちょっと」の主観化の変化は(49)のような特徴がある。

(49)「ちょっと」の主観化の特徴:

- ①傾向Ⅰ:「ちょっと」が限定する対象の基準点(reference point)は外在的なものから内在的なものへ変化する。
- ②傾向Ⅲ:「ちょっと」が限定するものは命題内部のものから命題に対する話者の態度へと変化する。

傾向Ⅰを具体的に言うと、「少量」、「小程度」を表す「ちょっと」が限定する対象は客観的な参照物があるか、または一般的に認識された標準がある。例えば、

(50)a. この竿は ちょっと 曲がっている。

b. 2分 ちょっと 待ちました。

のような例では、「この竿」の曲がりの程度を判断する時、「全然曲がっていない(真っ直ぐな)竿」という客観的な参照物が存在し、「この竿」の曲がりの程度がその参照物と比べて得られる結果である。さらに、(50b)では、人間は時間に対する認識標準があり、1時間や1日の24時間と比べれば、2分が短い時間だと見なされるのは疑いないものである。このように、「ちょっと」が限定される程度、量などは客観的な参照物または一般的に認識された基準があり、客観的に把握できる。しかし、(50b)の「ちょっと」は同時に、時間の長さではなく、相手の負担を測る「評価的・知覚的・認知的状況」を表しているともとれる。ここに傾向Ⅰのいう変化が見られるのである。

傾向Ⅲとは、(48c-e)のように、発話行為を限定する「ちょっと」は、一定の感情や心理態度を表すため、客観的な参照物に依存せず、命題に対する話者の態度や発話行為の種類を依存するものである。本論文第2章で見た先行研究、特に Matsumoto(2001)(2.1.2節)、岡本・斎藤(2004)(2.2.1節)、秋田(2005)(2.2.2節)、小出(2012)(2.2.3節)では、「ちょっと」には発話行為の種類に応じて話者の心的態度を表明する機能があることが明らかにされた。特に小出は「モダリティ副詞」という用語を使い、Matsumoto(2001:1)は“tyotto mitigates the force of the assertion”としている。よって、(48c-e)類は Traugott の傾向Ⅲの例であると考えられる。

以上の「ちょっと」の意味変化の特徴と Traugott の主観化の定義と照らしてみれば、「ちょっと」の「量、程度がわずか」の意味から「発話行為を和らげる」意味への変化過程は主観化の過程であるといえる。

3.3 文法化による統語変化

文法化は一般的に内容語が機能語に変わることを指し、即ちレキシコン要素から文法的要素への変化である。文法研究の中で無視してはいけない問題は文の構成要素の配列問題である。さらに、構成要素の配列問題は統語論に関わる問題である。従って、文法化研究を行う時、統語構造の問題を考えなければならない。

遠藤による終助詞の分析は「ちょっと」の分析において啓発的な役割を果たしている。遠藤(2009)は日本語の述部の構成を以下のように示している。

(51) a. 並べ+られ +てい+な+か+っ+た+そ+う+で+す+よ

b. 述語>ボイス>アスペクト>否定>テンス>対事的モード>丁寧>対人的モード

「対事的モード」は認識モダリティであり、話し手の発話内容に関する判断あるいは捉え方や認識を表す。「対人的モード」は発話伝達のモダリティとして見なされ、聞き手に対する話し手の働きかけを表す。つまり、「対事的モード」は話者に依存し、「対人的モード」は聞き手に依存する(井上, 2009)。(51)の構造から見ると、構造上に、聞き手に依存するものは話者に依存するものより高い位置を取ることが分かった。この点を参照して、「ちょっと」の限定する発話行為の状況を思い出してみよう。2節ですでに述べたように、「ちょっと」が限定する「断定」の発話行為は話者関与の発話行為であり、ほかの「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」、「呼びかけ」の発話行為は聞き手に関与する発話行為である。従って、(51)の構造から見た聞き手に依存するものは話者に依存するものより構造上に高い位置を占めることが成立すれば、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する「ちょっと」は「断定」の発話行為を限定する「ちょっと」より構造上に高い位置を取ることが予想される。

さらに、Roberts Ian & Roussou Anna (2003)によると、文法化における構造変化は機能的な主要部に沿って構造上に低い位置から高い位置への上向き (upward) 経路に従う。従って、「断定」の発話行為を限定する「ちょっと」は先に生起し、「行為指示」、「意思表示」、「否

定態度表明」の発話行為を限定する「ちょっと」は後に現れるはずである。

以上の先行研究を基に、「ちょっと」が文法化に進むにつれて、上向き (upward) 式の統語位置の変化が伴うと主張したい。さらに、遠藤による終助詞の分析を参照して、話者に関与する「断定」の発話行為を限定する「ちょっと」は先に構造上に低い位置に生起し、それに対して、聞き手に依存する「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」などの発話行為を限定する「ちょっと」は構造上により高い所に位置し、「断定」の発話行為を限定する用法の後に派生されたものだと仮定する。

「断定」の発話行為は話者に依存するものであり、一方、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」などの発話行為は聞き手を巻き込んでいて、事象が「断定」より複雑になると感じられる。事象の複雑さが使われた動詞からも見える。「断定」の発話行為は話者の独立した行為であり、1つの動詞で表示することができる。

(52) a. 私はちょっと銀行に行く。

b. 最近ちょっと体調が優れない。

一方、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する時、「ちょっと」は多くの場合に補助動詞と共起することが必要である。具体的に言うと、行為指示を表す場合には、「ちょっと」が「～てください」、「～てもらう」、「～てくれる」、「～ていただく」などのような補助動詞とよく共起する。実は、「ちょっと」自身が行為指示の意味を持たないが、「～てください」などのような補助動詞によって行為指示の機能を果たす。以下のように命令や依頼の文で使われる「ちょっと」はこのような補助動詞と共起し、行為指示の押し付け度を和らげる読みが得られる。

(53) a. あなたのお考えをちょっと教えてください。

b. ちょっと私の荷物を調べていただけませんか？

c. ちょっとパンを買ってきてくれる？

これらの例では、「ちょっと」を付けると、語気をさらに和らげられる。

「ちょっと」は「意思表示」の発話行為を限定する場合には、(54)のように、よく「～てあげる」のような補助動詞が伴われる。この場合の「ちょっと」は実施する行為は話者

にとって難しいことではないのを示し、相手が恩を受ける時に生じる不安感を軽減する機能を果たしている。

(54) a. ちょっとリボンで包装してあげますね。

b. それ、ちょっとしてあげるわよ。

「ちょっと」は「否定態度表明」の発話行為を限定する時、自分の意志に背く意味を持つ補助動詞「～てしまう」や「～かねる」、「～過ぎる」などとよく共起する。「ちょっと」は「～てしまう」のような補助動詞や「～かねる」、「～過ぎる」と共起し、否定態度を抑えめに表現する読みが得られる。

(55) a. あなたの説明はちょっと常識を超えてしまったのだ。

b. 彼女はちょっとやり過ぎなんだよなあ。

c. 先生の説にはちょっと賛成しかねるところがあります。

以上、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」などの発話行為は聞き手を巻き込んでいて、事象が「断定」より複雑であり、表現される場合に補助動詞が必要であることを述べた。その上で、ここで言わなければならないのは、それぞれの補助動詞が生じる統語構造上の位置には制限があるということである。

(56) 補助動詞 もらう & しまう

a. お父さんに宿題をやってもらってしまった。

a' *お父さんに宿題をやっちゃってもらった。

b. 昨日、私は居酒屋で飲んでいて、夜中に友達が迎えに来てもらった。

b' *昨日、私は居酒屋で飲んでいて、夜中に友達が迎えに来てもらった。

c. 「どうぞ」と目の前にティーカップが出され、お茶まで出してもらってしまった。

c' *「どうぞ」と目の前にティーカップが出され、お茶まで出してもらった。

(57) 補助動詞 あげる & しまう

a. 私は山田君に本を貸してあげてしまったので、もう君に貸せません。

- a' *私は山田君に本を貸してしまってあげたので、もう君に貸せません。
- b. 母親や祖母が手をかけすぎて、甘やかし、なんでもやってあげてしまうと、子供は楽をして自分でやろうとしなくなる。(『新保育原理』, 中田カヨ子, 2003)
- b' *母親や祖母が手をかけすぎて、甘やかし、なんでもやってしまってあげると、子供は楽をして自分でやろうとしなくなる。
- c. …のみこみの遅い子供を手取り足取り導いていくよりも自分が代わってやってあげてしまうほうが、どんなに楽かもしれません。(『自殺』, 榎本博明, 1996)
- c' *…のみこみの遅い子供を手取り足取り導いていくよりも自分が代わってやってしまってあげるほうが、どんなに楽かもしれません。

例(56)、(57)が示しているように、「～てもらってしまう」と「～てあげてしまう」のような語順が容認できるが、それを逆にすると、「～てしまってもらう」や「～てしまってあげる」などのような言い方は容認できない。動詞から右に離れていけばいくほど構造上に高い位置をとるため、そこから見れば、補助動詞「しまう」の統語位置は補助動詞「もらう」と「あげる」より高いであることが分かる。

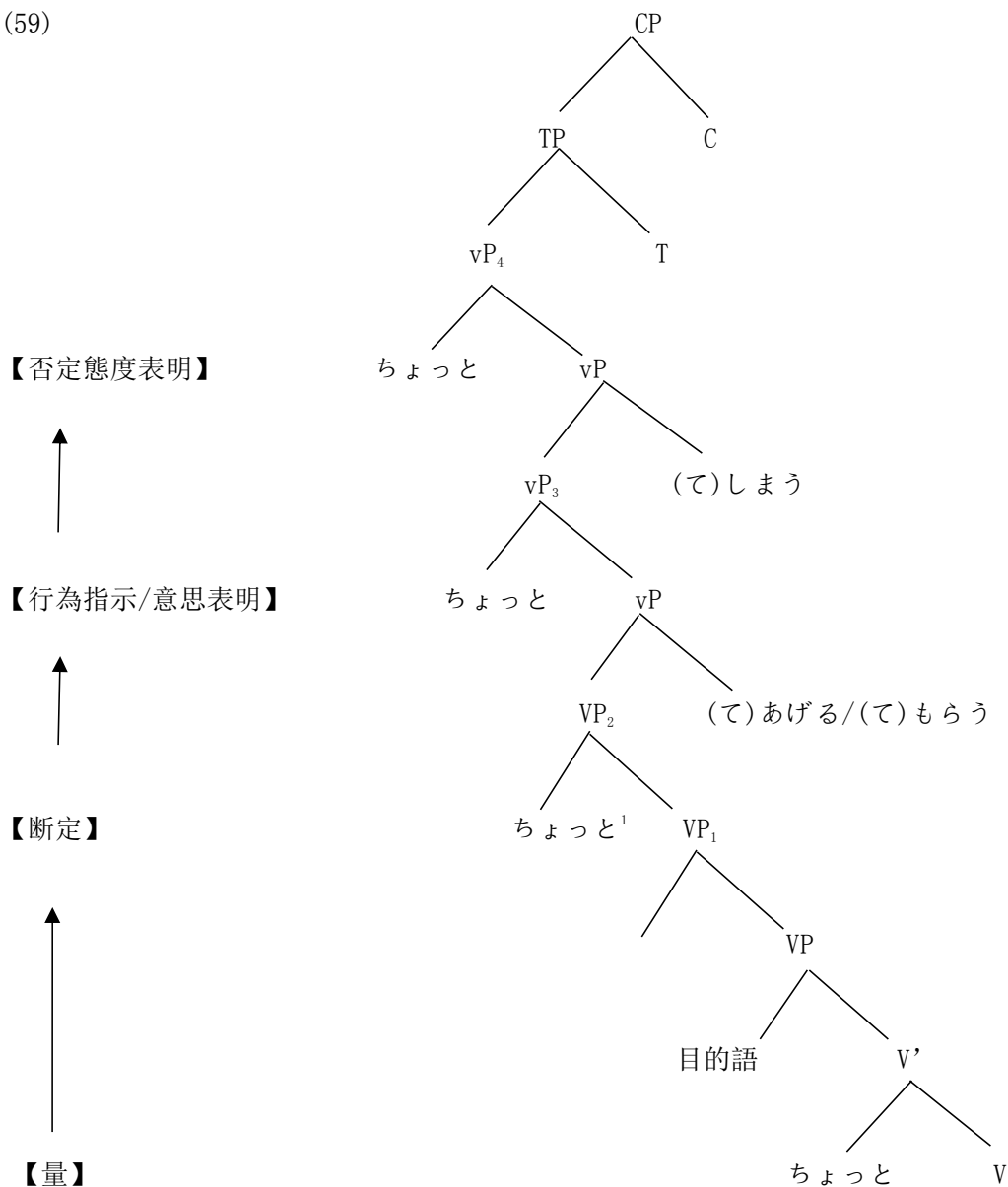
また、(58)のように、Cinque(1999)は統語構造上に複数の機能範疇が配列しており、それぞれの副詞がは特定の機能範疇の指定部位置に生起することを提案している。

(58) The universal hierarchy of clausal functional projections

[*frankly* Mood_{speech act} [*fortunately* Mood_{evaluative} [*allegedly* Mood_{evidential}
 [*Probably* Mod_{epistemic} [*once* T(Past) [*then* T(Future) [*perhaps* Mood_{irrealis}
 [*necessarily* Mod_{necessity} [*possibly* Mod_{possibility} [*usually* Asp_{habitual}
 [*again* Asp_{repetitive(I)} [*often* Asp_{frequentative(I)} [*intentionally* Mod_{volitional}
 [*quickly* Asp_{celerative(I)} [*already* T(Anterior) [*no longer* Asp_{terminative} [*still* Asp_{continuative}
 [*always* Asp_{perfect(?)} [*just* Asp_{retrospective} [*soon* Asp_{proximative}
 [*briefly* Asp_{durative} [*characteristically(?)* Asp_{generic/progressive} [*almost* Asp_{prospective}
 [*completely* Asp_{SgCompletive(I)} [*tutto* Asp_{PICompletive} [*well* Voice[fast/early
 Asp_{celerative(II)} [*again* Asp_{repetitive(II)} [*often*
 Asp_{frequentative(II)} [*completely* Asp_{SgCompletive(II)}

以上をまとめてみると、「ちょっと」の発展は図式的に示されると、以下のようになると考えられる。

(59)



¹ 量を表す「ちょっと」は基本的に目的語の後ろに置き、感情的用法の「ちょっと」と異なる統語位置に生じる。例えば

a. ちょっと¹次郎とちょっと²話をしてくるよ。

二つ目の「ちょっと」が量を表すものであり、「少し」に置き換えても、文は容認できる。

b. ちょっと次郎と少し話をしてくるよ。

しかし、一つ目の「ちょっと」を「少し」に置き換えると、文は容認不可能になる。

c. *少し次郎と少し話をしてくるよ。

実は、例 a の一つ目の「ちょっと」は「話を大きさにならないようにしたい」気持ちを表す「断定」の用法である。そこから見ると、感情的用法の「ちょっと」は量を表す「ちょっと」と違う統語位置に生じ、感情的用法の「ちょっと」は量を表す「ちょっと」より高い統語位置を占める。

「断定」の発話行為は話者に依存する行為であり、1つの動詞で表示されるため、ほかの補助動詞が必要である「行為指示」、「否定態度表明」などの発話行為を修飾する「ちょっと」と比べると、「断定」の発話行為を修飾する「ちょっと」は、動詞により近い統語位置に生起され、基本用法から最初に派生されるものだと考えられる。

「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為は、聞き手を巻き込んでいて、事象が複雑になり、表現される場合に補助動詞がよく使われる。「ちょっと」は機能範疇の指定部位置に生起し、それらの補助動詞と呼応して、発話行為の力を和らげる読みが得られる。従って、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を修飾する「ちょっと」は「断定」の発話行為を修飾する「ちょっと」より高い統語位置を占める。その上、(56)、(57)が示されるように、「否定態度表明」を表す時に使われる補助動詞「～てしまう」は、「行為指示」、「意思表示」を表す補助動詞「～てもらう」、「～てあげる」より統語構造上に高い所に位置するため、機能範疇指定部に生起する「否定態度表明」の発話行為を限定する「ちょっと」は「行為指示」、「意思表示」の発話行為を限定する「ちょっと」より高い統語位置に生じると仮定する。「ちょっと」の「行為指示」、「意思表示」の発話行為を修飾する用法は「否定態度表明」の発話行為を修飾するより先に派生されると思われる。

(59)から「ちょっと」が述語から離れていけばいくほど、感情的読みが生じやすいことが分かる。この語順問題の例をさらに挙げると(60)–(63)のようになる。

- (60) a. 昨日、太郎とお酒をちょっと飲んだ。(量の少なさの用法のみ)
b. 昨日、太郎とちょっとお酒を飲んだ。(意味が曖昧である)
- (61) a. #あの、あれなんです。父がちょっと亡くなりましたもんで…。
b. あの、あれなんです。 ちょっと父が亡くなりましたもんで…。(感情的読みのみ)
- (62) a. #今日の資料をちょっと机の上に出しておきますね。
b. ちょっと今日の資料を机の上に出しておきますね。(感情的読みのみ)

(60a)の「ちょっと」が述語に近い位置に生じ、「飲んだお酒の量が少ない」という解釈が自然に得られる。一方、(60b)の意味が曖昧である。(60b)の「ちょっと」は量・程度の読みと「お酒を飲んだことを大げさにならないようにしたい」という感情的読みの両方とも持っている。(61)(62)は感情的読みしかない例文である。この場合は、文の容認性の差が

明らかである。(61a)(62a)のように、「ちょっと」が述語に近い位置に生じると、文の容認性が落ちる。

次の(63)と(64)の例は感情的用法の「ちょっと」が統語構造上に高い位置を占めることをさらに明白的に示す。

(63) a. ちょっと、それはちょっと言いすぎるでしょう。

b. ちょっと、それは少し言いすぎるでしょう。

c. *少し、それはちょっと言いすぎるでしょう。

(64) a. ちょっと、ちょっと窓を開けてください。

b. ちょっと、少し窓を開けてください。

c. *少し、ちょっと窓を開けてください。

上の例から見ると、(63a)と(64a)の二番目の「ちょっと」は量・程度の読みであり、「少し」に置き換えても文が容認できる。しかし、一番目の「ちょっと」は「少し」に置き換えると文が不適格になる。実は、(63a)と(64a)の一番目の「ちょっと」は感情的用法として使われるものである。(63a)の最初の「ちょっと」は否定態度を抑えめに表現するために使われるものであり、(64a)の最初の「ちょっと」は要求行為の押し付け度を最小限にしたために使われるものである。そこから見れば、「ちょっと」が文法化していく段階で、もともと述語に近い位置に生じていた「ちょっと」が次第に述語から離れ、統語位置が上がっていく傾向が見られる。

ここで、なぜ「ちょっと」の類義語「少し」は文法化しないかという疑問を持つ人がいるかもしれない。Sawada(2016)によると、「少し」と「ちょっと」は同じスケールの意味を持っているが、慣習的含意のレベルでは両者が異なる細密度(granularity)を示す。具体的にいうと、Sawadaは「ちょっと」は不正確な計量を実行する時に使われ、「少し」は正確さを伴う計量を実行する時に使われると主張している。細密度の方面から考えると、「ちょっと」は不正確な計量を実行する時に使われるものであるため、修飾対象の選択制限がより少なく、多様な意味に転用されやすい。一方、「少し」は正確な計量を内在するため、修飾対象の指定が厳密であり、意味が転用しがたく、文法化しないと仮定すれば説明できる²。

² 英語では同じ現象がある。移動を表す動詞“go”が通時的に“be going to”、“be gonna”への文法化が起こる。しかし、同じ移動を表す動詞“move”や“travel”などが通時的に文法化しない。また、Miyagawa(1987)では、文法化について言及していないが、「出かける」、「帰る」などのような意味が濃い移動動詞は、意味が薄い移動動詞「行く」「来る」のように最構造化しないと述べている。

以上を踏まえて、ここで私は、日本語副詞の「ちょっと」の意味派生は(59)のように、機能範疇階層に沿って構造上に低い位置から、高い位置への上向き経路に従い、「ちょっと」の「断定」の発話行為を限定する用法からはじめ、その次、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する用法がこの順で発達したと主張する。

4節では、コーパス調査をすることによって、「ちょっと」の意味派生に関する仮説を検証する。

a. 太郎が神田に本を自転車で買いに行った。
b. *太郎が本をタクシーで買いに出かけた。

第4章 コーパス調査による仮説の検証

本節では、「ちょっと」の感情的用法の通時的発達について考察する。コーパス調査によって、「ちょっと」の感情的用法の初出例はいつ頃現れ、その後、通時的にどのような変化が起こるかということを中心とする。

調査の結果を示す前に、まず、今回の調査資料とチョットを含む用例の数を示しておく。

■コーパス

『日本語歴史コーパス(検索ツール[中納言])』、

『現代日本語書き言葉均衡コーパス(検索ツール[少納言])』

『青空文庫』

日本語歴史コーパスは平安時代の文学作品から明治・大正時代の大衆雑誌までのデータを記録した日本語コーパスである。日本語歴史コーパスの時代別収録語数は表1のようになる。

表1. 日本語歴史コーパスの時代別収録語数

時代	収録語数
奈良時代	98,499
平安時代	856,827
鎌倉時代	822,905
室町時代	235,087
明治・大正時代	12,550,661

(※注:ここでの語数は、記号・補助記号・空白を除いた語数である。)

現代日本語書き言葉均衡コーパスは現代日本語書き言葉の全体像を把握するために開発したコーパスである。コーパスの中で1970年-2008年のデータを集め、短単位延べ語数は

104,911,460 である。

青空文庫は著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品のテキストを公開しているインターネット上の電子図書館である。このコーパスの総語数は 8,370,720 語である。青空文庫で検索した文学作品名は次の表のようになる。

■文学作品(合計 26 冊)

著者	著者の生没年	作品名と刊行年
江戸川乱歩	1894-1965	『黒蜥蜴』(1934) 『怪人二十面相』(1936) 『少年探偵団』(1937) 『妖怪博士』(1938) 『青銅の魔人』(1949) 『怪奇四十面相』(1952) 『鉄塔の怪人』(1954) 『ふしぎな人』(1958) 『かいじん二十めんそう』(1959) 『怪人と少年探偵』(1960)
岡本綺堂	1872-1939	『深見夫人の死』(1930) 『鰻に呪われた男』(1931) 『人狼』(1931) 『青蛙神』(1931) 『西瓜』(1932) 『海亀』(1934) 『恨みの栄螺』(1934) 『怪獣』(1934) 『明治劇談 ランプの下にて』(1935) 『影』(1936) 『二十九日の牡丹餅』(1936) 『久保田米斎君の思い出』(1937)
梅崎春生	1915-1965	『記憶』(1962) 『凡人凡語』(1962) 『狂い嵐』(1963) 『幻化』(1965)

■用例数

日本語歴史コーパス	現代日本語書き言葉均衡コーパス	青空文庫
2175	400	276

「ちょっと」の用法分類に関しては、松本の分類法をベースにして、さらに「ちょっと」の感動詞用法を加えて考察していく。分類基準は 2 節で述べた通りであり、ここで、(66) として再掲する。

(65)

発話行為	関与 / 受益関係
断定	話者の独立した行為で、 聞き手は関与しない。
行為指示	聞き手が関与している。 話し手が受益者であるような行為。
意思表示	聞き手が関与している。 聞き手が受益者となる行為。
否定態度表明	聞き手が関与している。 且つ、話者は聞き手/第三者に対して否定的な態度を持つ
呼びかけ	聞き手が関与している。 「ちょっと」が独立語として存在する。

以下では、(65)の分類基準に従い、各々コーパスの調査結果を示す。

4.1 日本語歴史コーパスの調査結果(1220年—1925年)

日本語歴史コーパスの検索ページで語彙素読みが「チョット」であるという条件で検索すると、2175件の検索結果が見つかる。コーパスから分かるように、現代語「ちょっと」が成立する前に「ちと」(「ちっと」も含む)が生産的に使われる。『日本語国語大辞典』によると、「ちょっと」は副詞「ちっと」の変化したものであり、「ちっと」は「ちと」の促音添加したものである。

日本語歴史コーパスでは、1220年から1925年まで「ちと」の例文が収録されている。合計件数は283件(検索語数は14,563,929である)であり、そのうち感情的用法は86件が見つかる。例文は(67)のようになる。

(66) (量) a. 法文の御談義ども果てて、九献ちと参る。

〈法文のご議論などが終わって、お酒を少々上がられる〉(とはずがたり/1306)

(程度)b. 鳥襦を浮織物に織りたる柿の御衣を召して、右の方へちと傾かせおはしましたるさまにて、我は左の方なる御簾より出でて向…

〈御所様は鳥襦を浮織物に織った柿色の御衣を召して、お体は右の方へちょっと傾いていらっしゃるさまで、私は左の方の御簾から出てお向い申し上げる…〉 (とはずがたり/1306)

(行為指示)c. 筒井の御所の夜べの御面影ここもに見えて「ちと物仰せられむ」と呼びたまへども、いかが立ち上がるべき。

〈筒井の御所での昨夜のあのお方のお姿がこちらに現れて、「ちょっとお話しください」とお呼びになるけれども、どうして立ち上がるであろう〉 (とはずがたり/1306)

(断定) d. それならハいていはふずるには、ちと内きやくがござあつたに依て、おそなはりまらした、早々御出かたじけなふござる…

〈それならば行って言おうことには、「ちょっと内々の客がございましたので、ずいぶん遅くなりました。早速おいでいただきかたじけのうございます…〉 (虎明本狂言集/1642)

(意思表示) e. …身共も各をちと申しれうとおもふが…

〈私も皆をちょっと招待しようと思うが〉 (虎明本狂言集/1642)

(否定態度表明)f. それをそのまま男の間の地位に移すことはちと性的錯誤でありやしないかと思う。

〈それをそのまま男性同士の関係に移し替えてみると、ちょっと性的錯誤なのではないかと思う。〉 (太陽/1925)

上の例文から見ると、「ちょっと」の古い表現である「ちと」は量・程度を限定するほかに、「行為指示」、「断定」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定することもできる。

「ちょっと」の先行研究では、感情的用法の初出例に関する記述がなかったが、日本語歴史コーパスによると、1232年に「ちょっと」の感情的用法が登場する。

コーパス初出例: 女方は物思はしげなりしを、まほならねど心えたりしかば、ちと、けしき知らまほしくて、男のもとへつかはす。
 <女の方は思い悩んでいる様子であることを、すっかり事情を知ったのではないが、どうしてかわけがわかっていたので、ちょっと男の様子を知りたくて、男のもとへ(次のような歌を)贈った。>(建礼門院右京大夫集/1232)

ここで使われた「ちと」は「男の様子を少しだけ知りたい」、または「男の様子を知りたい程度が低い」という意味を表していない。従って量・程度副詞として理解すると不適切である。例文で使われた「ちと」は話者の断定の発話行為を限定するものと思われる。「男の様子を知りたい」という行為は聞き手を巻き込んでおらず、話者の独立した行為だからである。ここで使われた「ちと」は、「男の様子を知りたい」ことがたいしたことではない、またはそれを大げさにならないようにしたい気持ちを示している。

その上、「ちと」の例を除くと、日本語歴史コーパスでは「ちょいと」や、または当て字の「一寸」、「鳥渡」で書いている「ちょっと」の例もある。収録された例文は1874年から1925年までの例文である。合計検索件数は1892件であるが、そのうち感情的用法は496件がある。

以上の検索結果をまとめ、日本語歴史コーパスでの限られたデータに基づき、1220年-1925年の「チョット」の2175件データのうち、感情的用法は合計582件(全体の26.8%を占めること)がある。「ちょっと」の感情的用法の割合と頻度は表2のようにまとめる。

表2. 1220年-1925年「チョット」の感情的用法の割合と頻度

年代	1200	1300	1600	1800	1900
収録語数	723,675	99,230	235,087	3,811,440	8,739,171
用例数	4	22	95	229	1825
感情的用法の用例数	1	5	33	85	458

感情的用法の割合	25%	22.7%	34.7%	37.1%	25.1%
頻度(PER MIL)	1.38	50.39	140.37	22.3	52.41

上の表から見ると、「ちょっと」の感情的用法の頻度は時間とともに増加している。感情的用法の割合は少し揺れがあるが、使用頻度に注目すると、1200年代から1600年代まで増え、1800年代に前より使用頻度は減っていることになるが、1900年代以降は再び増大する傾向が見える。なぜ1600年代に「ちょっと」の使用頻度が突出しているのか？日本語歴史コーパスで収録している1600年代のすべての「チョット」のデータは狂言資料『虎明本狂言集』からなる。ほかの文芸・非文芸の資料と比べれば、『虎明本狂言集』の中で登場人物の台詞などの口語資料がたくさん収録されている。「チョット」は口語でよく使われるものであるため、ここでの頻度の増加は理解にかたくない。

上で述べた通り、「ちょっと」はさまざまな発話行為を限定できるが、日本語歴史コーパスから見える「ちょっと」の発話行為を限定する状況はどうなるのかを調べてみると、表3のようになる。

表3. 「ちょっと」が限定する発話行為(日本語歴史コーパス)

発話行為	断定	行為指示	意思表示	否定態度表明	呼びかけ
用例数	182	208	16	131	45
割合	31.2%	35.7%	2.7%	22.5%	7.7%

表3によると、1220年-1925年の間に、「ちょっと」はすでにさまざまな発話行為を限定する副詞として使われた。その中で、「行為指示」の発話行為を限定する割合は最も高いこと、次は「断定」の割合が高いことが分かった。その上、この二種類の発話行為は全体の6割以上を占め、そこから見れば、1220年-1925年の間に「ちょっと」の限定する発話行為は「行為指示」と「断定」に偏ることがあると認められる。

ここで注意すべきのは、日本語歴史コーパスによると、「ちょっと」は感動詞として使われる用法があるが、「ちょっと」の古い表現である「ちと」は感動詞として使われないことである。感動詞としての「ちょっと」は、(67)のように現れる。

(67) a. …急に何やら思ひ出したるらしく、「お師匠さん、お師匠さん、ちょいとちょいと」

と呼びかけて、再び彼方にへ駈け戻りしに… (太陽/1895)

b. 楠見「一寸」と香久子を呼び、耳打ちをする。(太陽/1909)

c. …ドンドン急ぎ足で昇らうとした。と、老人は、「あ、ちよつと!」と呼びとめて足もとへ手をのばしたから… (太陽/1925)

日本語歴史コーパスから見ると、感動詞として使われる「ちよつと」の初出例は(67a)のように、1895年頃に登場する。「ちよつと」は相手の注意を喚起する機能が果たしている。

なお、「ちよつと」は限定する発話行為の内部発達状況はどのようになるか、表4にまとめた。

表4. 「ちよつと」が限定する発話行為の年代別用例数

年代 \ 発話行為	断定	行為指示	意思表示	否定態度表明	呼びかけ
1200	1	×	×	×	×
1300	3	2	×	×	×
1600	8	23	2	×	×
1800	26	35	3	16	5
1900	144	148	11	115	40

表4から、年代の推移を見れば、最初に「断定」の発話行為を限定する「ちよつと」の感情的用法が登場し、次いで「行為指示」の発話行為を限定する用法が現れ、その後、「意思表示」、「否定態度表明」と「呼びかけ」の用法がこの順に現れる。即ち、歴史コーパスによって、通時的見れば、「ちよつと」の限定する発話行為の内部発達順序は(68)のようになる

(68) 「ちよつと」の用法の歴史的発展順序:

断定 → 行為指示 → 意思表示 → 否定的態度表明 → 呼びかけ

総じていえば、日本語歴史コーパスを考察した上で、現在会話で使われた「ちよつと」の感情的用法は「断定」を表す用法から始まり、その用法を「行為指示」、「意思表示」「否

定態度表明]、「感動詞」へと拡張していることが分かった。

3節の最後に、「ちょっと」の感情的用法は「断定」、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の順序で派生されるという仮説を提示したが、(68)のコーパス調査結果と照らし合わせてみると、3節で立てた仮説は正しいものであるといえる。

4.2 青空文庫の調査結果(1930年-1960年)

日本語歴史コーパスと現代日本語書き言葉均衡コーパスでは、1930年代-1960年代のデータを収めないため、この時期のデータは青空文庫を参考にし、合計276件のデータを収集した。この部分で考察したデータは江戸川乱歩、岡本綺堂、梅崎春生の作品(合計26冊)から抽出したものである。

276件のデータのうち、感情的用法は116件があり、全用例数の4割(42.03%)を占めることになる。歴史コーパスの結果(全体の26.8%を占めること)と比べると、「ちょっと」の感情的用法は時間の推移とともに増えている傾向がみられる。

10年ごとに「ちょっと」の感情的用法の割合は表5のようになる。

表5. 「ちょっと」の感情的用法の使用割合

年代	1930	1940	1950	1960
用例数	141	25	50	60
expressive の用例数	57	12	26	21
感情的用法の割合	40.4%	48%	52%	35%

表5から、青空文庫の考察によって、「ちょっと」の感情的用法の割合は1930年-1950年に増大し、1960年で停滞することが分かった。然も、歴史コーパスの1925までの結果と比べれば、感情的用法の割合は全体的に増えていくことが言える。

青空文庫から見る「ちょっと」の発話行為を限定する状況は表6のようにまとめる。

表6. 「ちょっと」が限定する発話行為

発話行為	断定	行為指示	意思表示	否定態度表明	呼びかけ
用例数	25	61	4	17	9
割合	21.7%	52.2%	3.5%	14.8%	7.8%

表6から見ると、「ちょっと」は「行為指示」の発話行為を限定する割合が一番高い、その次は「断定」である。この二つが全体の7割以上を占め、「ちょっと」は頻繁に「行為指示」と「断定」の発話行為を限定することが明らかである。

4.3 現代日本語均衡コーパスの調査結果(1970年-2008年)

1970年-2008年の「ちょっと」の使用状況を明らかにするために、現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下は書き言葉均衡コーパスと略称する)の例文を参考にして考察する。書き言葉均衡コーパスでの「ちょっと」の用例は28187件があるが、本論文では10年ごとに上位100件のデータを抽出し、合計400件のデータを分析した。400件データのうち、感情的用法は167件がある。

10年ごとに「ちょっと」の感情的用法の使用頻度は表7のように挙げた。

表7. 「ちょっと」の感情的用法の使用割合

年代	1970	1980	1990	2000
用例数	100	100	100	100
expressive の用例数	37	41	42	47
感情的用法の割合	37%	41%	42%	47%

表7から、感情的用法の使用割合に着目すると、1970年から2008年までに「ちょっと」の感情的用法の割合が次第に増大していく傾向がみられる。

「ちょっと」が限定する発話行為の状況をまとめると表8のようになる。

表8. 「ちょっと」が限定する発話行為

発話行為	断定	行為指示	意思表示	否定態度表明	呼びかけ
用例数	47	61	4	41	14
割合	28.1%	36.5%	2.4%	24.6%	8.4%

書き言葉均衡コーパスによると、現代日本語で使われている「ちょっと」は「行為指示」の発話行為を限定する割合が一番高い。表3・6・8を合わせてみると、通時的に「行為指示」を限定する用法はよく使われることが分かった。ほかの発話行為を限定する用法は年

代の推移を見れば大きな変化がないが、「呼びかけ」の用法は 1800 年代登場した後に増えている傾向がみられる。

4.4 本節のまとめ

以上の 1200 年代-2000 年代のデータを総合的にまとめると表 9 のようになる。

表 9. 1200-2000 年代「ちょっと」の用例総数に占める感情的用法の割合

年代	1200	1300	1600	1800	1900	2000
用例数	4	22	95	229	2401	100
感情的用法の用例数	1	5	33	85	694	47
感情的用法の割合	25%	22.7%	34.7%	37.1%	28.9%	47%

表 9 から見ると、「ちょっと」の感情的用法の割合は若干揺れがあるが、全体的に見れば、感情的用法の割合が増えていて、時間とともに増大していると言える。「ちょっと」は「量、程度がわずかである意味」と「発話行為を和らげる意味」が共存しているが、「発話行為を和らげる意味」即ち感情的用法が時間とともに割合が高くなってきて、そこから見ると、「ちょっと」の意味は次第に量、程度を表す客観的な意味から話者の心理的態度を表す主観的な意味へ変化していることが分かる。「ちょっと」という語は時間とともに主観的になりつつある。

「ちょっと」が限定する発話行為の内部に通時的変化も見える。発展の順序は以下のようになる。

(69) 「ちょっと」の用法の歴史的発展順序:

断定 → 行為指示 → 意思表示 → 否定的態度表明 → 呼びかけ

(69) のとおり、「ちょっと」の感情的用法は「断定」を表す用法から始まり、その用法を「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」、「感動詞」へと拡張していることが分かった。

その上、通時的に「ちょっと」が「行為指示」の発話行為を限定する用法はよく使われ、ほかの発話行為を限定する用法は年代の推移を見れば大きな変化がないが、「呼びかけ」の

用法は 1800 年代登場した後に増えている傾向がみられる。

第 5 章 中国語と日本語の比較について

本章では日本語の「ちょっと」とその中国語対応語の「有点」と「一下」を比較して分析する。「ちょっと」と「有点」、「一下」は意味と用法上に共通点があるが、動詞、形容詞との共起条件や、発話行為を限定する範囲の面では異なるところがある。以下では、5.1 節において、日本語の「ちょっと」と中国語の「有点」、「一下」の共起条件を比較する。

「ちょっと」と「有点」、「一下」は動詞と共起できるが、「有点」、「一下」は動詞と共起する時、部分的に相補分布になる。形容詞との共起条件を考えると、「一下」は形容詞と共起できないが、「ちょっと」と「有点」は「反期待」の性質があり、マイナス評価と共起しやすい。5.2 節では、「有点」と「一下」の感情的用法について述べる。「有点」と「一下」は発話行為が限定できる点で「ちょっと」と共通しているが、使える環境は日本語よりも制限が強い。さらに、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する時、「有点」と「一下」は役割を分担し、相補分布になる。

まずは、(70)の例を見てみよう。

(70)a. この 竿 は ちょっと 曲がっている。

这个 竿子 有点 弯。

b. この本 は ちょっと 高い。

这本书 有点 贵。

c. ちょっと 待って ください

一下 等 请

中国語訳: 请等一下。

d. 彼は ちょっと 服を 洗った。

他 一下 衣服 洗 了(完了)

中国語訳: 他洗了一下衣服。

上の例から見ると、日本語の「ちょっと」と中国語の「有点」、「一下」は翻訳する場合

に、対応関係が見られる。

『現代中国語辞典』では、「有点」と「一下」について次のように記述されている。

【有点】(副詞) 程度が高くないことを示す。多く好ましくないことに用いる。

【一下】(副詞) 動詞の後ろに置き、動作を行う時間が短いことを表す。ほかには「一下」が<数詞「一」+動量詞>とみるべき用法もあり、動作回数(一回)を表す。

日本語副詞「ちょっと」の基本的な意味は「量・程度が少ない」ことまたは「時間が短い」ことである。辞書で記述された内容から見ると、日本語の「ちょっと」と中国語の極小化子「有点」、「一下」とは意味または用法上には共通点がある。

5.1 「ちょっと」「有点」「一下」の共起条件に関する比較

日本語の「ちょっと」は程度副詞として使われる時、主に動詞、形容詞を修飾する。

「ちょっと」は動詞を修飾する時、「動作の量が少ない」または「時間の量が少ない」ことを表す。

(71)a. 朝ごはんをちょっと食べただけだ。

b. 次の電車が来るまでちょっと待ちました。

(71a)の「ちょっと」は食べた量が少ないことを表し、(71b)の「ちょっと」は待つ時間が短いことを表す。

実際には、「動作の少量」と「時間の少量」ははっきり区分できず、意味が曖昧になる場合もある。

(72)ここからちょっと行くと、レストランがありますよ。

このような文では動く距離が少ないという解釈と、時間が短いという解釈が両方とも可能である。

「ちょっと」は幅広い動詞と共起できるが、すべての動詞と共起できるわけではない。Matsumoto(2010)によると「ちょっと」は明白な遂行動詞と共起できない。

- (73) a. *ちょっとこの部屋を出るように命令する。
b. *ちょっとオリンピック大会の開会を宣言します。

(73)の例では、「命令する」「宣言する」のような遂行動詞が含まれている。「ちょっと」は遂行動詞と共起すると、文が容認できなくなる。

次に、「ちょっと」が形容詞と共起する場合の制限を考えてみる。

「ちょっと」は形容詞を修飾する場合に、修飾対象の性質や、状態の程度を表す。形容詞はプラスの意味とマイナスの意味があり、比較すると、「ちょっと」はマイナスの意味を持つ形容詞(消極的な形容詞)と共起しやすい。

- (74) a. ちょっと嫌だ。
b. ちょっと汚い。
(75) a. *ちょっと頼もしい。
b. *ちょっときれい。

なぜ「ちょっと」がマイナスの意味を持つ形容詞と共起しやすいかについて渡辺(1990)がすでに説明を与えている。渡辺によると、程度小を表す「ちょっと」は「多少類」副詞に属する。「多少類」の副詞は計量構文に生起する場合に、下の(76)のような共起制限がある。

- (76) <構文型> Xは 多少 Aだ。
<計量構文> あの道は 多少 危険だ。(あの道はちょっと危険だ。)
<計量構文> *あの道は 多少 安全だ。(*あの道はちょっと安全だ。)

(76)の二つの例文から見ると、構文型のA位置に「危険」のようなマイナス的形容詞を生起できるが、「安全」のようなプラスの意味を持つ形容詞が共起すれば非文になる。渡辺は、計量構文では形態上に比較基準が顕在化しないが、一般的社会常識という潜在的比較基準が含まれ(例えば(76)の例では、人の歩く道路である以上、当然「安全」であってほし

い、「多少類」の副詞は「潜在比較」の程度副詞と見なされる。(76)の類例とは(77)のよ
うな例も挙げられる。

- (77) a. 甲社のガードマンは多少頼りない。 (甲社のガードマンはちょっと頼りない)
*甲社のガードマンは多少頼もしい。 (*甲社のガードマンはちょっと頼もしい)
b. 彼は多少生意気だ。 (彼はちょっと生意気だ。)
*彼は多少素直だ。 (*彼はちょっと素直だ。)

(76)(77)が示すように、構文型のA位置には、マイナス評価であるものが最もよく馴染
む。渡辺は「多少類」の副詞は「反期待」という表現性があると主張する。従って、「多少
類」副詞に属する「ちょっと」は「反期待」の性質があり、マイナス評価の形容詞と共起
しやすい。

「ちょっと」の中国語類義語の「有点」は形容詞、動詞を修飾することもできる。

「有点」は「ちょっと」のほど自由に動詞を修飾するのではない。「有点」は話者の心理
的感情や主観的意見を表す単語なので、具体的動作を表す動詞と共起しにくい。例えば、

- (78)a. *有点 等。 (等 一下)
ちょっと 待つ。
b. *有点 看。 (看 一下)
ちょっと 見る。

「有点」は以下の3つの場合では動詞と共起することが可能である。

①「有点」は人の主観的感情や態度を表す抽象的な動詞と共起することができる。

- (79) 有点担心(ちょっと心配する) *担心一下/*一下担心
有点兴奋(ちょっと興奮する) *兴奋一下/*一下兴奋
有点后悔(ちょっと後悔する) *后悔一下/*一下后悔
有点悲伤(ちょっと悲しむ) *悲伤一下/*一下悲伤

具体的動作を表す動詞と違って、(79)のような動詞は人の態度や心理状態を表す動詞であり、意味が抽象的である。「有点」という語は本来に主観的意見を表すものであるため、(79)のような抽象的な動詞と共起できる。

②「有点」は体の異常を表す動詞と共起することができる。

- (80) 有点发烧(ちょっと熱が出た) *发烧一下/*一下发烧
有点疲倦(ちょっと疲れる) *发烧一下/*一下发烧
有点发炎(ちょっと炎症を起こしている) *发炎一下/*一下发炎
有点头晕(ちょっとくらくらする) *头晕一下/*一下头晕

「有点」は体の異常を表す動詞と共起する時、意味の曖昧性が生じられる。1つの読みは異常状況の程度が低いことを表し、一方、もう一つの読みは、感情的用法の読みである。体の異常状況を相手に伝える時、相手の注意を引き、迷惑をもたらす可能性がある。この場合は「有点」を使って、自分の異常状況が大したことではない、または相手わざわざ注意する必要がないというニュアンスが含まれている。

③「有点」は変化の意味を含む動詞(変化動詞)と共起することができる。

- (81) a. 体重 有点 増加。 (*体重增加一下/*一下增加)
 体重が ちょっと 増える。
 b. 成績 有点 下降。 (*成绩下降一下/*一下下降)
 成績が ちょっと 下がる。

以上の心理感情を表す動詞、体の異常状況を表す動詞、または変化動詞が一定の状態性を含んでいる。具体的に言えば、心理感情を表す動詞は人の心理状態を表し、同様に、体の異常状況を表す動詞は身体の状態を示し、変化動詞は意味的に変化後の状態を含む。従って、「有点」は状態性が含まれる動詞を好むとってよい。

さらに、「有点」は形容詞と共起する例が多いことから上記の観察は妥当であるといえる。「有点」は「ちょっと」と同じように「反期待」の性質があり、形容詞を修飾場合に、マイナス的な形容詞と共起しやすい。

- (82) 有点痛苦(ちょっと苦しい) 有点可怕(ちょっと恐ろしい)
有点冒失(ちょっとそそっかしい) 有点俗气(ちょっと俗っぽい)
*有点愉快(ちょっと楽しい) *有点舒服(ちょっと気持ちいい)
*有点漂亮(ちょっと美しい) *有点聪明(ちょっと賢い)

(82)の例から見ると、「有点」は「苦しい」「恐ろしい」などのようなマイナス的な形容詞によく馴染み、「楽しい」「気持ちいい」などのようなプラス的な形容詞に馴染まない。「有点」はマイナス的な形容詞を好む点が「ちょっと」と類似している。

次に「ちょっと」のもう一つの中国語対応語として「一下」を見てみよう。「一下」は動詞と共起することができるが、形容詞と共起しにくい。

- (83) *认真(まじめ) 一下/ *一下认真 *正直(しょうじき) 一下/ *一下正直
*无聊(つまらない) 一下/ *一下无聊 *丑陋(みにくい) 一下/ *一下丑陋

(83)から、プラス形容詞であるか、マイナス形容詞であるかに関わらず、「一下」はそれと共起することができないと分かる。

「一下」はよく動詞と共起する。(78)-(81)がすでに示しているように、「一下」と「有点」が選択する動詞は相補分布の関係がある。上で述べた「有点」は具体的動作を表す動詞と共起できないが、状態性が含まれる動詞を選択する傾向があるのに対し、「一下」は具体的動作を表す動詞と共起しやすいが、状態性が含まれる動詞と共起できないのである。以下の例を見てほしい。

- (84) a. 看 一下 (*有点看)
見る ちょっと

ちょっと見る

b. 听 一下 (*有点听)

聞く ちょっと

ちょっと聞く

c. *担心(心配する)一下 有点担心

*后悔(後悔する)一下 有点后悔

d. *发烧(熱が得る)一下 有点发烧

*头晕(くらくらする)一下 有点头晕

e. *体重 増加 一下。(体重有点増加。)

体重 増える ちょっと

体重がちょっと 増える。

(84)が明白的に、「一下」は「看(見る)」「听(聞く)」のような具体的動作を表す動詞によく馴染み、(84c-e)のような状態性がある動詞と共起しにくいことを示している。

「一下」が共起できる動詞は以下の二つの特徴がある。

(85)「一下」が選択する動詞の特徴:

①制御性(controllability)

②持続性 / 反復の可能性がある

(85)の二つの条件が同時に満たさなければならない。証明例は(86)(87)(88)のようになる。

(86)〈制御性あり、持続性 / 反復の可能性なし〉

*出发(出発する)一下 *有点出发

*结婚(結婚する)一下 *有点结婚

*夺取(奪い取る)一下 *有点夺取

*放弃(放棄する)一下 *有点放弃

(87)〈持続性 / 反復の可能性があり、制御性なし〉

*沸腾(沸騰する)一下 有点沸騰

- *融化(融ける)一下 有点融化
- *増加(増える)一下 有点増加
- *凝固(凝固する)一下 有点凝固

(88) <制御性あり、持続性 / 反復の可能性があり>

- 考慮(考慮する)一下 *有点考慮
- 安慰(慰める)一下 *有点安慰
- 写(書く)一下 *有点写
- 跑(走る)一下 *有点跑

「一下」は動詞の後ろに置き、動作を行う時間が短いことを表す。「一下」が修飾する動作は短くとも、一定の持続性があることを含意する。(86)では「出发(出発する)」や「放弃(放棄する)」などのような動詞は「出发(出発する)」または「放弃(放棄する)」の動作を行う瞬間にその動作が終了する(Vendler(1967)の四分類では「到達動詞(achievement)」という)。よって、「出发(出発する)」を代表とする持続性が含まれない動詞は「一下」と共起できない。注意すべきは、「有点」も(86)のような動詞と共起できない。なぜかというところ、上述のように、「有点」は状態性が含まれる動詞を好むため、(86)のような状態性が含まれない動詞と共起しにくい。「一下」と共起できる動詞には、「制御性」という特徴もある。(87)では、「沸腾(沸腾する)」や「凝固(凝固する)」などは、多くの場合には自発的にその変化を行うわけではなく、加熱あるいは化学剤などの外力を借りる可能性がある。(87)の非文性から見ると、「一下」は「制御性を持たない」動詞と共起しにくい。(88)の例は「制御性」と「持続性 / 反復の可能性」の両方とも満たす例であり、「一下」がそのような動詞とよく馴染むことがはっきり示される。

以上のことをまとめると、(89)のようになる。

(89) 「ちょっと」「有点」「一下」の共起条件のまとめ

	動詞との共起	形容詞との共起
「ちょっと」	遂行動詞と共起できない。	「反期待」の性質があり、 マイナス評価と共起しやすい

「有点」	状態性が含まれる動詞を好み、具体的動作を表す動詞と共起しにくい。	「反期待」の性質があり、 マイナス評価 と共起しやすい
「一下」	状態性が含まれる動詞と共起できず、「制御性」且つ「持続性 / 反復の可能性」がある動詞と共起できる。	×

動詞と共起する場合は、日本語「ちょっと」は遂行動詞と共起できない。「ちょっと」の中国語対応語「有点」と「一下」は選択する動詞が部分的に相補分布になる。「有点」は具体的動作を表す動詞と共起できず、状態性が含まれる動詞と共起できるのに対して、「一下」は具体的動作を表す動詞と共起でき、状態性が含まれる動詞と共起しにくい。具体的に言うと、「一下」は「制御性」且つ「持続性 / 反復の可能性」がある動詞を好む。さらに、(86)のような「有点」とも「一下」とも共起できない場合もある。

形容詞と共起する場合は、日本語の「ちょっと」と中国語の「有点」は「反期待」の性質があり、マイナスの意味を持つ形容詞とよく馴染む。「一下」は形容詞と共起できない。

5.2 「有点」「一下」の感情的用法について

前節で述べたように、日本語の極小化子「ちょっと」は発話行為を限定する感情的用法を持つ。興味深いのは、極小化子の感情的用法は中国語にも見られる。

ここで、松本の語用論的分類を参照し、中国語の場合にはどうなるかを考えてみる。

(90)

発話行為	例文
断定	<p>a. 最近 身体 有点 不舒服。(*最近身体一下不舒服。)</p> <p>最近 体 ちょっと 具合がよくない</p> <p>最近ちょっと体の具合がよくないです。</p> <p>b. (我) 去 一下 研究室。(*我有点去研究室。)</p> <p>(私は) 行く ちょっと 研究室</p> <p>ちょっと研究室に行ってくる。</p>

行為指示	c. 那本书 借我 一下 好吗? (*那本书 有点 借我好吗?) その本 貸す ちょっと いただけませんか? その本を <u>ちょっと</u> 貸していただけませんか?
意思表示	d. (我) 帮你 一下 吧。(*我 有点 帮你吧。) (主語) してあげる ちょっと よ <u>ちょっと</u> してあげるわよ。
否定的態度表明	e. 那 有点 不可 想象。(*那 一下 不可想象。) それは ちょっと できない 想像 それは <u>ちょっと</u> 想像できない。
呼びかけ	f. <u>ちょっと</u> 、どこへ行くの? 中国語:喂, 去哪儿啊? * 有点 , 去哪儿啊? * 一下 , 去哪儿啊?

上の表から見ると、「有点」にも「一下」にも感情的用法を持っているが、使える環境は日本語よりも制限が強い。特に、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定すると、「有点」と「一下」はここでも役割を分担し、相補分布になるといえる。

まず、「有点」には「断定」「否定的態度表明」の発話行為を限定する用法がある。「有点」は「断定」の発話行為を限定する場合、例えば(90a)では、話者が自分の体調が優れないことを相手に伝える時、相手の注意を引き、迷惑をもたらす可能性がある。この場合は「有点」を使って、話者自身の気持ち/行為などを大げさしないように、または自分のことが気にするほどではないというニュアンスを表す。「否定的態度表明」の発話行為を限定する場合には、「有点」の後ろによく好ましくない内容が続く。話者は「有点」を使って、暗示的に否定な態度を表明し、否定的な意見をより婉曲に表すようにする。

次に、「一下」は「断定」、「行為指示」、「意思表示」の発話行為を限定する用法がある。「一下」は一般的に時間の短さを示すもので、動詞の後ろに出てくる場合に、「ちょっと～する」「ちょっと～してみる」のような意味を表し、軽い気持ちで動作を行うこと、または口調を和らげ、行為にもたされる負担の軽減を表すことができる。

具体的に分析すれば、「断定」の発話行為は、自分の行為を新情報として相手に伝え、相手の注意を引くことがある。その場合には、「一下」を使い、自分のことが大したことでは

ない、相手がわざわざ注意する必要ではないという話者の気持ちを表す。

「行為指示」の発話行為は話者が相手にある行為をさせようという発話行為であり、相手に依頼する時は同時的に相手に負担をもたらす。ここで「一下」を使って、要求の程度が減少し、相手と相談するような口調になる。このようにすることで、話者の要求がより容易に受け入れられ、相手に負担感が感じさせない。(90c)の例では、「一下」は要求の押し付け度を和らげる機能があり、この文は「長期間に本を貸すわけではなく、できるだけ早く本を返却する」という含意を伝えている。(91)の例は「一下」の口調を和らげる機能をより明白に示す。

- (91) a. 递一下 (ちょっと渡して)
b. 递过来 (渡して)

「一下」を使わない(91b)は命令の語気が強く、失礼な感じが高まる。それに対して「一下」を用いる(91a)は命令な語気が和らげられ、相手に不愉快な気持ちをもたらさない。

「一下」には意思表示の発話行為を限定する用法もある。「意思表示」の発話行為は話者自分がある行為をし、相手に利益をもたらす。例えば(90d)では、話者は相手に助けを提供する。この場合は「一下」を使って、「助ける」という行為は話者にとって難しいことではないことを示し、同時に、相手(受益者)が恩を受ける時に生じる不安感を軽減することができる。

これらを日本語の「ちょっと」と比較してみよう。「有点」と「一下」は発話行為が限定できる点で、「ちょっと」と共通しているが、「有点」と「一下」は日本語の「ちょっと」ほど暗示的に用いられることが少ない。

- (92) ちょっとはさみある?

中国語:有(ある) 剪子 (はさみ) 吗(疑問を表す要素)?

*一下剪子吗? *有点剪子吗?

(92)は単なる「少量のはさみがある?」という疑問文ではなく、(92)の「ちょっと」は語用的機能を持ち、談話標識と見なされ、暗示的に「はさみを貸してくれる」という意味を伝えることをすでに見た。日本語では「ちょっと」が暗示的に行為指示を表す機能を持

っているが、中国語の「有点」と「一下」はこの場合に使えなくなる。

さらに(93)の例もある。

(93) A:今夜飲みに行かない?

B:今夜はちょっと…

中国語訳

A' :今晚去喝酒吧?

B' :?今晚**有点**…

B" :*今晚**一下**…

(93)の文では、「ちょっと」の後ろの内容が省略され、「ちょっと」が暗示的に「今夜は行けない」という断りの意味を伝える。(93)では「有点」と「一下」を使うと、文の容認性が落ちるが、「有点」と「一下」は容認性の差がある。上述のように、「有点」は「ちょっと」と同じように、「反期待性」を持っていて、後続の内容がマイナスの意味を持つものとよく馴染む。従って、「有点」はある程度で、否定的な意味を導入する機能を持っているとよい。(93B')のような言い方はある程度で理解でき、完全な非文ではないが、自然な言い方ではないため、「?」を付ける。しかし、(93B")は意味をなさないため、完全な非文になる。

さらに、日本語の「ちょっと」は呼びかけ感動詞の用法があるが、(90f)が示すように、中国語の「有点」と「一下」の両方とも感動詞の用法を持っていない。

中国語では、本来、量・程度が小さいことを表す「有点」と時間が短いことを表す「一下」は、発話行為を修飾する感情的用法も持っていることが文法化に関わる問題である。日本語の「ちょっと」と比べれば、「有点」「一下」の使える環境は「ちょっと」より制限が強く、さらに、「ちょっと」は文法化に進むにつれ、概念的意味を持たない感動詞用法が派生され、意味が薄くなっている傾向が見える。それに対して、中国語における「有点」と「一下」はそのような用法が派生されない。ゆえに、「有点」と「一下」の文法化の程度は日本語「ちょっと」より弱いと言えるだろう。

第6章 まとめ

「ちょっと」は本来数量、時間、程度がわずかであることを表すが、日常会話の中で、話者の感情や心理態度を表すに使われる「ちょっと」の例もしばしば観察されている。このような用法は感情的(expressive)用法と言われる。

このような「ちょっと」の意味変化は文法化に関わる問題であると主張する。「ちょっと」の意味拡張はメタファー的な過程を伴い、客観的な意味から主観的な意味への変化があり、その意味変化は統語構造上にも反映されると考えられる。「ちょっと」は量・程度を表す意味から、感情的意味への発達、または感情的用法の中で「断定」、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の用法の発展は「ちょっと」が修飾する事象の複雑さが高くなっていく(徐々に相手を巻き込んでいく)傾向が見られ、それとともに、「ちょっと」の統語位置が述語に近い位置から次第に述語から離れ、統語位置が上がっていく。

「ちょっと」の通時的变化を明らかにするために、日本語歴史コーパス、現代日本語書き言葉均衡コーパス、青空文庫を参照にして考察した。コーパス調査によれば、感情的用法の初出例が1200年代に現れ、その後、徐々に増大していくこと、及びそれによって表される発話行為も多様化しつつあることが分かった。

また、本研究では、中国語の「有点」と「一下」という「ちょっと」の対応語についても扱った。「ちょっと」と「有点」、「一下」は意味と用法上に共通点があり、語気を和らげ、相手を配慮するとの感情的用法もある。「有点」と「一下」は「ちょっと」のように感動詞の用法を持っていないが、「行為指示」、「意思表示」、「否定態度表明」の発話行為を限定する時、「有点」と「一下」は役割を分担し、相補分布になることが分かった。

参考文献

- [1] 相原茂. 2010. 中日辞典. 講談社
- [2] 秋田恵美子. 2005. 現代日本語の「ちょっと」について. 創価大学別科紀要 17 pp77-89
- [3] 秋元実治. 2005. 文法化と意味変化. 英潮社 pp27-53.
- [4] 井上和子. 2009. 生成文法と日本語研究. 大修館書店 pp120-131.
- [5] 遠藤喜雄. 2009. 話し手と聞き手のカートグラフィー. 言語研究 136: pp93-119
- [6] 岡本佐智子・斉藤シゲミ. 2004. 日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能.
北海道大学
- [7] 奥野忠徳・小川芳樹. 2002. 極性と作用域. 研究社
- [8] 工藤浩. 1983. 程度副詞をめぐって. 渡辺実編『副用語の研究』. 明治書院
- [9] 國廣哲彌. 1980. 日英比較講座 第二巻・文法. 大修館書店
- [10] 小出慶一. 2012. フィラーとしての「ちょっと」について. 埼玉大学紀要. 48-1
pp59-71
- [11] 笹本明子. 2006. 「ちょっと」の発話機能について—行為要求文に表れる「ちょっと」
を中心に. 同志社女子大学大学院文学研究科紀要 6. pp115-136
- [12] 周国龍. 1994. 要求行為における「ちょっと」の機能に関する一考察. 名古屋大学人
文科学研究 23-1 pp167-178
- [13] 田和真紀子. 2011. 程度副詞の評価性をめぐって. 宇都宮大学教育学部紀要
61, pp25-36
- [14] 田和真紀子. 2017. 日本語程度副詞体系の変遷. 勉誠出版
- [15] 仁田義雄. 2002. 副詞的表現の諸相. くろしお出版
- [16] 長谷川信子. 2010. 統語論の新展開と日本語研究—命題を越えて. 開拓社
- [17] 飛田良文・浅田秀子. 1994. 現代副詞用法辞典. 東京堂出版
- [18] 深津周太. 2016. 副詞「ちょっと」の感動詞化—行為指示文脈における用法を契機と
して. 日本語学会 2016 年度秋季大会予稿集
- [19] 三原健一. 2008. 構造から見る日本語文法. 開拓社

- [20] 渡辺実. 1990. 程度副詞の体系. 上智大学国文学論集 23, pp1-16
- [21] Cinque Guglielmo. 1999. Adverbs and Functional Heads(A cross-Linguistic perspective). Oxford University
- [22] Hopper Paul J. & Traugott Elizabeth Closs. 1993. Grammaticalization. Cambridge University Press
- [23] Koizumi, Masatoshi. 1993. Modal Phrase and Adjuncts. Japanese/Korean Linguistics 2:pp409-428
- [24] Matsumoto Yoshiko. 2001. Tyotto: Speech Act Qualification in Japanese Revisited. Japanese Language and Literature 35(2001) pp1-16
- [25] Roberts Ian & Roussou Anna. 2003. Syntactic Change-A minimalist approach to grammaticalization. Cambridge University
- [26] Sawada Osamu. 2010. Positive polarity minimizers: the semantic/pragmatics interface. 46th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society
- [27] Sawada Osamu. 2011. The meanings of positive polarity minimizers in Japanese: a unified approach. SALT20:pp599-617
- [28] Sawada Osamu. 2012. Dimensions of the Japanese minimizers A LITTLE. 第12回大会発表論文集. 第5号 pp169-176
- [29] Sawada Osamu. 2013. Precision and manner of measurement: the case of Japanese minimizers. Japanese Linguistics 6
- [30] Sawada Osamu. 2016. Varieties of positive polarity minimizers in Japanese.
- [31] Shigeru Miyagawa. 1987. Restructuring in Japanese. Issues in Japanese Linguistics. Foris Publications
- [32] Traugott, Elizabeth Closs. 1989. On the rise of epistemic meaning in English: an example of subjectification in semantic change. Language Volume 65-1
- [33] Traugott, Elizabeth Closs. 1995. Subjectification in Grammaticalisation. Subjectivity and Subjectivisation-Linguistic perspectives. Cambridge University

コーパス

[1] 青空文庫

[2] 現代日本語均衡コーパス

[3] 日本語歴史コーパス